



第1回 よこはま保健医療プラン策定検討部会 次第

令和4年10月31日(月) 19:00~20:30
横浜市役所 18階会議室みなと1・2・3 / Zoom

1 開会

2 あいさつ(横浜市医療局副局長)

3 委員紹介

4 議事

- (1) 部会の進め方について 【資料1】
- (2) 「よこはま保健医療プラン2024」の検討に向けた意見交換 【資料2】
- (3) 横浜市民の医療に関する意識調査(案)について 【資料3】

5 その他

6 閉会

【配布資料】

- 資料1 今後のスケジュールについて
- 資料2-1 「よこはま保健医療プラン2018」の構成と関連する計画について
- 資料2-2 「よこはま保健医療プラン2018」概要と中間振り返り(2020年度)での取組実績
- 資料2-3 意見交換用資料
- 資料2-4 国の検討状況について
- 資料3-1 横浜市民の医療に関する意識調査の概要について
- 資料3-2 調査票(案)

参考資料1 よこはま保健医療プラン策定検討部会設置要綱

参考資料2 委員名簿

■ 「よこはま保健医療プラン2024」 概要

(1) 趣旨

急速な高齢化の進展など保健医療を取り巻く環境が大きく変化する中、本市の実情に適した課題の解決を図るため、保健医療分野を中心とした施策を総合的に体系付けた中期的な指針として「よこはま保健医療プラン」を策定し、各種施策を推進します。

(2) 計画期間

2024（令和6）年度から2029（令和11）年度まで（6年間）

(3) 策定根拠

医療法に基づき、都道府県単位で策定される「医療計画」に準じて、本市独自に策定します。策定にあたっては、国が示す「医療計画策定指針」等をふまえ、「神奈川県保健医療計画」とも整合性を図りながら策定していきます。

横浜市保健医療協議会の専門部会として

「よこはま保健医療プラン策定検討部会」を設置し、検討を進めていきます。

	R 4 年度		R 5 年度				R 6 年度
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4月~
保健医療協議会		★		★		★	
策定検討部会	★	★		★★		★	
プラン策定	論点議論		骨子	素案	原案 《答申案》		策定 計画に基づき 施策を推進
市民意識調査	実施	集計・ 報告					
パブリックコメント					実施		
市会						【議決】	

策定検討部会のテーマ（予定）

- 第1回（令和4年10月31日）：部会の進め方、次期プランに向けた意見交換、医療に関する意識調査（案）
- 第2回（令和5年2月頃）：骨子イメージの検討、市民意識調査の結果報告
 →保健医療協議会で進捗状況を報告
- 第3回（令和5年7月頃）：素案の検討①、よこはま保健医療2018の振り返り
- 第4回（令和5年8月頃）：素案の検討②
 →保健医療協議会で進捗状況を報告 →10月~11月 パブリックコメント実施
- 第5回（令和6年1月頃）：パブリックコメントの結果報告、原案《答申案》の検討
 →保健医療協議会へ報告 →市会で議決

「よこはま保健医療プラン 2018」の構成と関連する計画について

Ⅲ章 横浜市の保健医療の目指す姿 『2025 年に向けた医療提供体制の構築』 (P.41～)

- | | |
|------------------------------------|--------------|
| 1 横浜市の医療提供体制と横浜型地域包括ケアシステムの構築 | よこはま地域包括ケア計画 |
| 2 2025 年に向けた医療提供体制の構築 《地域医療構想の具現化》 | |
| 3 患者中心の安全で質の高い医療を提供する体制の確保 | |
| 4 横浜型地域包括ケアシステムの構築に向けた介護等との連携 | よこはま地域包括ケア計画 |

Ⅳ章 主要な疾病(5疾病)ごとの切れ目ない保健医療連携体制の構築 (P.87～)

- | | | | | |
|---------------|--------------|---------|---------|--------|
| 1 がん | 市がん撲滅対策推進条例 | | | 健康横浜21 |
| 2 脳卒中 | | | | |
| 3 心筋梗塞等の心血管疾患 | | | | |
| 4 糖尿病 | | | | |
| 5 精神疾患 | 市依存症対策地域支援計画 | 市自殺対策計画 | 市障害者プラン | |

Ⅴ章 主要な事業(4事業)ごとの医療体制の充実・強化 (P.153～)

- | | | | | |
|-----------------------|-------|----------------|--|-----------|
| 1 救急医療 | | | | |
| 2 災害時における医療 | 市防災計画 | | | |
| 3 周産期医療 (周産期救急医療を含む。) | | 市子ども・子育て支援事業計画 | | 市教育振興基本計画 |
| 4 小児医療 (小児救急医療を含む。) | | 市障害者プラン | | |

※次期プランでは、主要な事業に
「5 新興・再興感染症」追加予定

Ⅵ章 主要な保健医療施策の推進 (P.185～)

- | | | | |
|-----------------------------|-------------------|--------|---------|
| 1 感染症対策 | 市新型インフルエンザ等対策行動計画 | | |
| 2 難病対策 | 市障害者プラン | | |
| 3 アレルギー疾患対策 | | | |
| 4 認知症疾患対策 | よこはま地域包括ケア計画 | | |
| 5 障害児・者の保健医療 | 市障害者プラン | | |
| 6 歯科口腔保健医療 | 市歯科口腔保健の推進に関する条例 | 健康横浜21 | 市障害者プラン |
| | 市歯科口腔保健推進計画(今後策定) | | |
| 7 生活習慣病予防の推進 (第2期健康横浜21の推進) | | | |

I章 プランの基本的な考え方(P1~)

▶ 計画策定の趣旨と位置付け

- ・本市独自の行政計画として、保健医療分野を中心とした施策を総合的に体系づけた中期的な指針として平成20年に策定。
- ・医療法に基づく「医療計画」に準じ、保健医療分野を中心とした施策を総合的に体系付けた中期的な指針。

▶ 基本理念

- ・市民一人ひとりが生涯にわたり心身ともに「健康」で「あんしん」して住み慣れた地域で暮らせる社会の実現。
- ・効率的・効果的で質の高い医療提供体制を整え、保健・医療・介護等の切れ目のない連携に基づく「地域包括ケアシステム」の構築。
- ・子どもから高齢者まで市民の誰もが将来にわたり横浜で暮らし続けることへのあんしんを支える医療・保健の仕組みづくり。

II章 横浜市の保健医療の現状(P7~)

地勢と交通、人口構造、人口動態、市民の受療行動、保健医療圏と基準病床、横浜市の医療提供体制、市民の生活習慣と生活習慣病の状況

III章 横浜市の保健医療の目指す姿『2025年に向けた医療提供体制の構築』(P41~)

▶ 横浜市の医療提供体制と

横浜型地域包括ケアシステムの構築

- ・市立・市大・地域中核病院等を基幹とした医療提供体制の整備
- ・医療需要等の将来推計
- ・2025年に向けた横浜市の医療提供体制と横浜型地域包括ケアシステムの構築

▶ 2025年に向けた医療提供体制の構築

《地域医療構想の具現化》

- ・回復期・慢性期を中心とした病床機能の確保
- ・在宅医療の充実(在宅医の確保・支援、多職種連携)
- ・医療従事者等の確保・養成

▶ 患者中心の安全で質の高い医療を提供する体制の確保

- ・安心・安全な医療提供体制の確保
- ・医療ビッグデータの活用
- ・市民の選択や適切な受診に資する医療に関する情報提供
- ・国際化に対応した医療提供体制の整備

▶ 横浜型地域包括ケアシステムの構築に向けた

介護等との連携

- ・介護・医療・介護予防・住まい等が連携し、一体的に提供される「横浜型地域包括ケアシステム」の実現

実績・取組事項等

- ・市民病院を2020年5月に移転
- ・市立大学附属病院・センター病院の再整備について、「横浜市立大学医学部・附属2病院等の再整備構想」を策定

実績・取組事項等

- ・回復期・慢性期病床を中心に計1,279床の病床を配分
- ・2019年~「医療マンガ大賞」を実施
- ・在宅看取り率(※2019年実績)
策定時:16.7% 目標:25.7% 実績:18.9%
- ・横浜市在宅看取り率(※2019年実績)
策定時:18.9% 目標:26.4% 実績:25.4%
- ・市内病院の看護職員の確保を図るための取組
- ・在宅医療連携拠点等を中心とした多職種連携(薬剤師と医療・介護従事者との連携)

実績・取組事項等

- ・定期立入検査の実施
- ・医療安全推進協議会の実施
- ・医療・介護・保健データを統合したYoMDBを構築
- ・#7119認知率
策定時:53.3% 目標:66.5% 実績:71.5%
- ・健康サポート薬局に対して、今後もかかりつけ機能及び健康支援機能の把握

実績・取組事項等

- ・小規模多機能型居宅介護事業所数
策定時:129 目標:178 実績:136
- ・看護小規模多機能型居宅介護事業所数
策定時:13 目標:22 実績:20
- ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所数
策定時:40 目標:51 実績:46
- ・地域ケア会議の開催
- ・元気づくりステーション数 策定時:239 目標:400 実績:322
- ・特別養護老人ホーム 整備数(単位:人分)
策定時:15,593 目標:17,033 実績:16,749
- ・認知症高齢者グループホームの整備数(単位:床)
策定時:5,438 目標:6,113 実績:5,886

IV章 主要な疾病(5疾病)ごとの切れ目ない保健医療連携体制の構築(P87～)

▶ がん

- ・がんの予防(生活習慣の改善等)
- ・がんの早期発見(がん検診の受診率の向上)
- ・専門的医療や連携体制の充実、人材育成、緩和ケアの充実
- ・ライフステージに応じた対策(小児がん、就労支援等)
- ・相談支援・情報提供
- ・がん登録・がん研究の推進

▶ 脳卒中

- ・予防啓発(生活習慣の改善、再発予防等の市民啓発)
- ・救急医療提供体制の確保
- ・急性期医療(横浜市救急医療情報システム(YMIS)による
応需情報提供、血栓除去術実施医療機関との連携)
- ・急性期以後の医療(回復期～維持期)
在宅医療連携拠点等との連携

▶ 心筋梗塞等の心血管疾患

- ・予防啓発(生活習慣の改善、再発予防等の市民啓発)
- ・救急医療提供体制の確保
- ・急性期以後の医療(回復期～維持期)

▶ 糖尿病

- ・予防啓発(生活習慣の改善、受診勧奨等)
- ・重症化予防
- ・専門医療機関、一般医療機関、歯科医療機関等との連携
- ・地域連携クリティカルパスや糖尿病連携手帳の活用

▶ 精神疾患

- ・精神科救急体制の確保
- ・精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築
- ・アルコールや薬物、ギャンブル等による依存症対策の強化
- ・自殺対策の推進

実績・取組事項等

- ・禁煙支援(喫煙防止教育、禁煙外来や禁煙支援薬局の紹介、
地域子育て支援拠点との協力)
- ・受動喫煙防止対策
- ・がん検診受診率 (2023年度目標:50%)
2019年実績
胃がん 50.7%、肺がん 47.9%、大腸がん 44.6%、
乳がん 51.6%、子宮頸がん 52.2%
- ・がん診療連携拠点病院数 13か所
- ・市内のがんに関する専門・認定看護師数
策定時:161 目標:180 実績:182
- ・緩和ケア病床数
策定時:181 目標:186 実績:206
- ・小児がん連携病院 3病院
- ・がん相談支援センターの認知度
策定時:26.1% 目標:35.0% 実績:26.0%
- ・在宅医療連携拠点での多職種連携会議・事例検討会の実施

実績・取組事項等

- ・脳血管疾患救急医療体制参加医療機関連絡会の開催
(搬送状況や治療実績等を分析、評価)
- ・YMISを通じた医療機関の応需情報の提供
- ・在宅医療連携拠点での多職種連携会議・事例検討会の実施
- ・在宅歯科医療連携室との連携

実績・取組事項等

- ・急性期心疾患救急医療体制の運用について検討するワーキンググループの開催
- ・在宅医療連携拠点での多職種連携会議・事例検討会の実施
- ・心臓リハビリテーション強化指定病院における取組
(地域連携体制の構築等)

実績・取組事項等

- ・重症化予防事業の実施
(18区における重症化予防の保健指導の実施等)
- ・国保特定健診データを用いた疾病の重症化予防事業
- ・内科、糖尿病内科、眼科、歯科の受診を促し、治療中断を防止するためのリーフレットの作成
- ・在宅医療連携拠点での多職種連携会議・事例検討会の実施

実績・取組事項等

- ・警察官通報受理から診察開始までの平均時間
目標:平均4時間45分以内
実績:平均4時間29分
- ・精神科救急への協力登録医師数
目標:26人 実績:48人
- ・保健・医療・福祉関係者による協議の場の設置(市域・区域)
- ・「横浜市精神障害者退院サポート事業」を18区に拡大して実施
- ・横浜市依存症対策地域支援計画の策定
- ・横浜市自殺対策計画の策定

V章 主要な事業(4事業)ごとの医療体制の充実・強化 (P153～)

▶ 救急医療

- ・初期救急医療体制の充実
(休日急患診療所、夜間救急センター)
- ・横浜市救急相談センター「#7119」の体制強化、利用促進
- ・二次・三次救急医療体制の充実
- ・高齢者の救急搬送の増加に向けた救急医療体制の検討

実績・取組事項等

- ・休日急患診療所の老朽化への対応
- ・移転後の市民病院におけるドクターカーの運用開始
- ・横浜市救急医療検討委員会による検討(第8次提言)

▶ 災害時における医療

- ・市内13の災害拠点病院を中心とした災害時医療体制
- ・多機関が連携する災害医療訓練の実施(MCA無線機、衛星携帯電話、広域災害医療情報システム(EMIS)の活用)
- ・災害時に医療的配慮を必要とする市民(透析・在宅酸素・IVH等)に対応する体制の整備
- ・大規模集客イベント時における医療救護体制の構築

実績・取組事項等

- ・災害医療訓練の実施
- ・災害拠点病院におけるBCP(業務継続計画)の整備(13か所すべてで完了)
- ・2019年のラグビーワールドカップ、2021年のオリンピック・パラリンピックにおける医療救護体制の構築

▶ 周産期医療(周産期救急医療を含む。)

- ・産婦人科の医師確保、勤務環境改善
- ・産科拠点病院の体制強化、連携体制の充実
- ・出産場所やNICU等周産期病床の確保
- ・産後うつ早期発見
- ・妊娠期の相談支援の充実

実績・取組事項等

- ・出生1,000人あたりの産婦人科医師数
策定時:10.7人(2014年) 目標:10.7人
実績:11.8人
- ・産科拠点病院数 3か所
- ・NICU病床数
策定時:99床 目標:99床 実績:105床
- ・産後うつ対策検討会や「ハイリスク妊産婦カンファレンス」の実施
- ・不妊・不育専門相談事業の実施

▶ 小児医療(小児救急医療を含む。)

- ・小児科医師の確保
- ・小児救急拠点病院体制の維持
- ・小児医療の適切な受診勧奨・啓発
- ・医療的ケア児・者等の支援

実績・取組事項等

- ・小児救急拠点病院数 7か所
- ・小児救急医療に関する啓発
- ・医療的ケア児・者等支援検討委員会の開催
- ・横浜型医療的ケア児・者等コーディネーターの配置(6か所、18区を対象に支援開始)
- ・横浜子どもホスピスの開所
- ・児童虐待早期発見・早期対応に向けた連携強化

VI章 主要な保健医療施策の推進 (P185～)

▶ 感染症対策

- ・各種感染症の発生予防、拡大防止
- ・結核対策(服薬支援や健康診断の推進等によるり患率の減少)
- ・エイズ対策(正しい知識の普及啓発、検査・相談体制の強化)
- ・予防接種の接種率の向上
- ・新型インフルエンザの発生に備えた体制整備
- ・肝炎対策(検査や重症化予防対策の推進、広報・啓発)
- ・市民病院における感染症対策

実績・取組事項等

- ・新型コロナウイルス感染症へ対応
- ・一類・二類感染症発生時を想定した訓練を実施
- ・結核り患率(人口10万対)
策定時:15.2 目標:10.0 実績:11.0
- ・エイズに関する若年層や個別施策層に対する普及啓発
- ・二種混合ワクチンの接種率向上に向けた接種勧奨
- ・ロタウイルスワクチンの定期予防接種化
- ・市薬剤師会と医療機関と協定を結び、14,000人分の抗インフルエンザ薬を備蓄
- ・肝炎患診療連携拠点病院 2か所
- ・肝炎ウイルス検査の実施
- ・衛生研究所による情報発信

▶ 難病対策

- ・特定医療費(指定難病)助成制度の実施体制整備
- ・療養生活環境整備事業の実施
- ・難病対策地域協議会の設置検討

▶ アレルギー疾患対策

- ・みなと赤十字病院アレルギーセンターにおける体制強化
- ・アレルギー疾患対策基本法を踏まえた取組
- ・医療機関連携の推進
- ・学校及び保育所等の職員の人材育成
- ・市民への普及啓発

▶ 認知症疾患対策

- ・医療・介護サービスの適切な提供、連携強化
- ・認知症の早期診断・早期対応に向けた普及啓発、体制づくり
- ・若年性認知症の人や家族への支援の充実

▶ 障害児・者の保健医療

- ・医療提供体制の充実、障害特性を理解するし対応する医療従事者等の育成
- ・リハビリテーションの充実
- ・常に医療的ケアを必要とする重症心身障害児・者等への対応(多機能型拠点の整備等)

▶ 歯科口腔保健医療

- ・全てのライフステージを通じた歯科口腔保健に関する理解促進、健診の推奨
- ・口腔健康・口腔機能の維持・向上

▶ 生活習慣病の予防(第2期健康横浜 21 の推進)

- ・生活習慣の改善(食生活、歯・口腔、喫煙・飲酒、運動、休養・こころ)
- ・生活習慣病の重症化予防(がん検診、特定健診の普及)

実績・取組事項等

- ・難病講演会・交流会の開催
- ・難病相談支援センターについて、神奈川県、川崎市、相模原市と協定書を締結し、共同運営を開始(療養生活環境整備事業)
- ・難病対策地域協議会の開催

実績・取組事項等

- ・みなと赤十字病院アレルギーセンターにおける診療、個別相談、患者教室、食物アレルギー研修、講演会等の実施
- ・アレルギー疾患幼児児童生徒対応マニュアルの改訂と全市立学校教職員向け研修の実施
- ・保育所等職員向け研修の実施

実績・取組事項等

- ・認知症初期集中支援チームの18区設置・運用
- ・認知症早期発見モデル事業(もの忘れ検診)の実施
- ・認知症疾患医療センター 9か所
専門医療相談:4,949件、鑑別診断:2,188件
- ・認知症サポート医養成研修の実施
- ・認知症対応力向上研修の実施
(薬剤師・看護職員・歯科医師研修・かかりつけ医研修)
- ・若年性認知症支援コーディネーターの配置

実績・取組事項等

- ・障害者の食生活への支援として、障害者施設職員(支援員、栄養士、看護師等)を対象とした研修の実施
- ・横浜市知的障害者対応専門外来設置医療機関 5か所
- ・横浜型センター的機能を活用した学校支援を継続的に実施
- ・高次脳機能障害者専門相談支援事業(18区)
- ・多機能型拠点の整備 4か所(令和6年4月開所予定)

実績・取組事項等

- ・母親教室や妊産婦歯科相談の場での歯科保健知識の普及啓発
- ・3歳児におけるむし歯のない者の割合
策定時:89.1% 実績:91.7%
- ・12歳児の一人平均むし歯数
策定時:0.4本 実績:0.35本
- ・歯周病・オーラルフレイル予防に関する健康教育の実施
- ・歯科保健医療センターの運営支援
- ・在宅医療連携拠点における医科歯科連携、地域の医療・介護従事者の連携

実績・取組事項等

- ・よこはま健康アクションに位置付けられている各事業の推進
- ・保健活動推進員等と連携し、健康づくりに向けた取組を展開
- ・横浜健康経営認証事業所数
策定時:28か所 目標:300か所 実績:667か所

意見交換用資料

(5 疾病) がん

概要

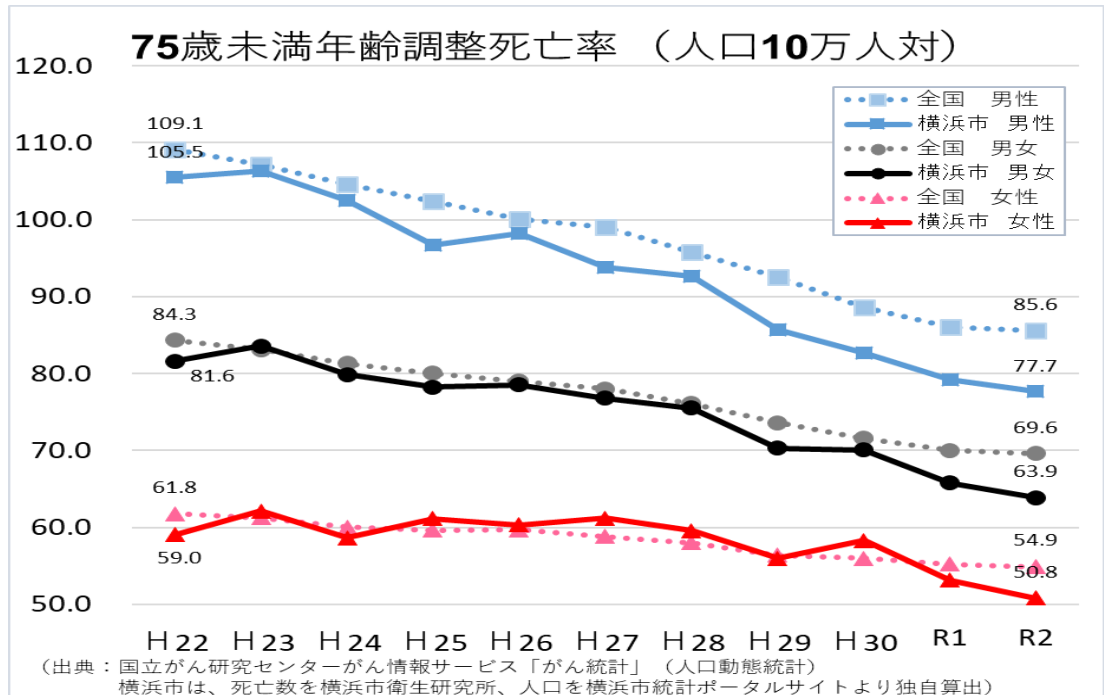
- ✓ 「横浜市がん撲滅対策推進条例」(平成26年10月施行)に基づき、総合的ながん対策を推進する
- ✓ がん医療の充実に加え、予防や早期発見、就学支援等ライフステージに応じた対策を推進し、すべての市民が「がんを知り、がんと向き合い、がんと共に生きる」ことができる社会の実現を目指す

市の主な施策

- がん検診受診率向上への取組
(個別勧奨通知の送付、妊婦健診対象者の子宮頸がん検診の自己負担額の無料化)
- 専門看護師等資格取得支援、緩和ケアの充実
- 乳がん対策(乳がん連携病院指定、人材育成)
- 小児がん対策(小児がん連携病院指定、長期フォローアップ補助)
- ピアサポート相談の支援
- がん患者及びその家族等への支援(若年がん患者等在宅療養支援、ウィッグ購入費等支援)
- がん治療と仕事の両立支援
- 横浜市立大学におけるがん研究への支援

この6年間の主な動き

参考データ・図



(5 疾病) 脳卒中

概要

- ✓ 発症してから治療を受けるまでの時間が短いほど救命や後遺症の軽減の可能性が高いため、専門的な治療やリハビリが可能な参加基準を満たした病院により、脳血管疾患救急医療体制を構築している
- ✓ 急性期以後においても生活機能の維持・向上や再発防止に向け、関係多職種が連携し、退院後も継続してリハビリテーションや療養支援が実施される体制の構築を目指す

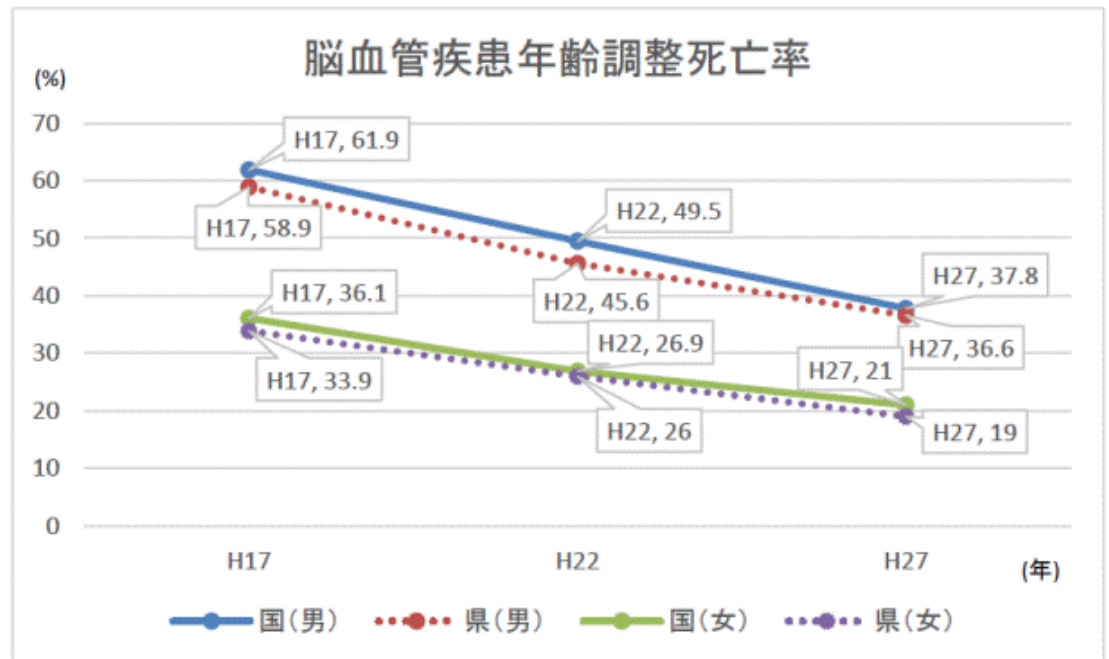
市の主な施策

- 生活習慣の改善や生活習慣病の重症化予防などの「健康横浜21」を中心とする健康づくり事業
- 横浜市脳血管疾患救急医療体制の構築
 - ・ 診療体制等基準を満たした31病院 (R4.4)
 - ・ 横浜市救急医療情報システム (YMIS) を通じて救急隊への正確な情報提供の徹底

この6年間の主な動き

- 2018 健康寿命延伸等を図るための脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法
- 2020 循環器病対策推進基本計画
- 2022 神奈川県循環器病対策推進計画

参考データ・図



出典：神奈川県循環器病対策推進計画

(5 疾病) 心血管疾患

概要

- ✓ 専門的な治療を迅速かつ適切に提供できるよう、参加基準を満たした病院により心疾患救急医療体制を構築している
- ✓ 急性期以後においても生活機能の維持・向上や再発防止に向け、関係多職種が連携し、退院後も継続してリハビリテーションや療養支援が実施される体制の構築を目指す

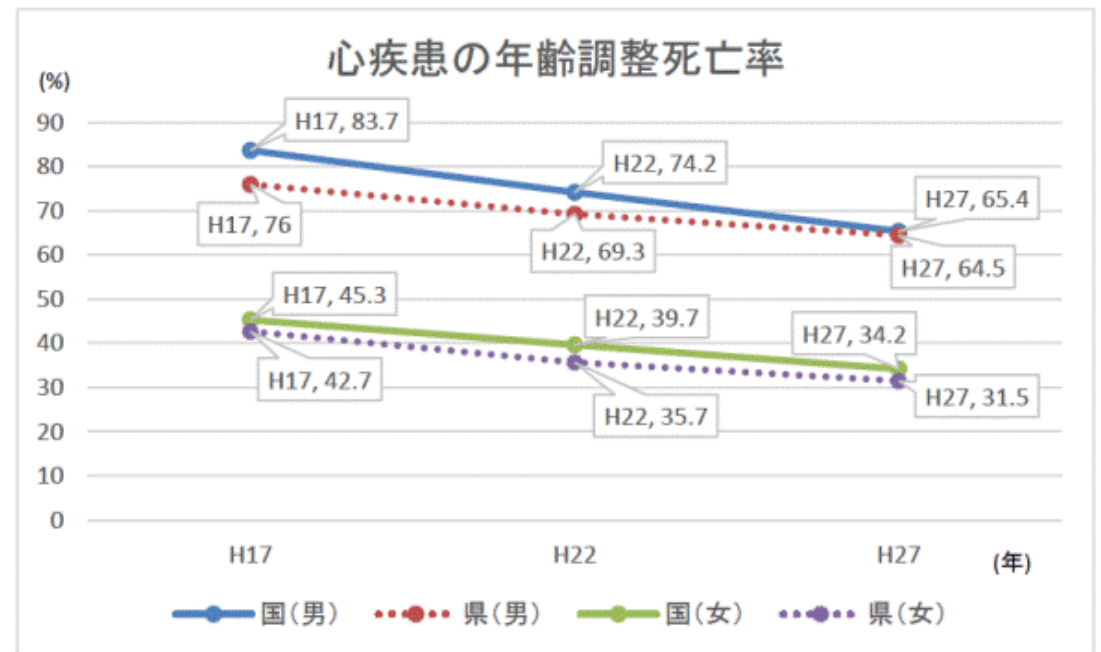
市の主な施策

- 生活習慣の改善や生活習慣病の重症化予防などの「健康横浜21」を中心とする健康づくり事業
- 心臓リハビリテーションの推進
- 横浜市心疾患救急医療体制の確保
 - ・ 診療体制等基準満たした23病院 (R4.4)

この6年間の主な動き

- 2018 健康寿命延伸等を図るための脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法
- 2020 循環器病対策推進基本計画
- 2022 神奈川県循環器病対策推進計画

参考データ・図



出典：神奈川県循環器病対策推進計画

(5 疾病) 糖尿病

概要

- ✓ 糖尿病の発症予防や重症化予防を推進するため、生活習慣の改善や早期発見、受診勧奨等について、地域の多職種連携を強化し、地域で実効性のある医療連携体制の構築を目指す
- ✓ 食事療法や運動療法生活習慣改善に向けた患者教育など、専門職種と連携した患者支援を進める

市の主な施策

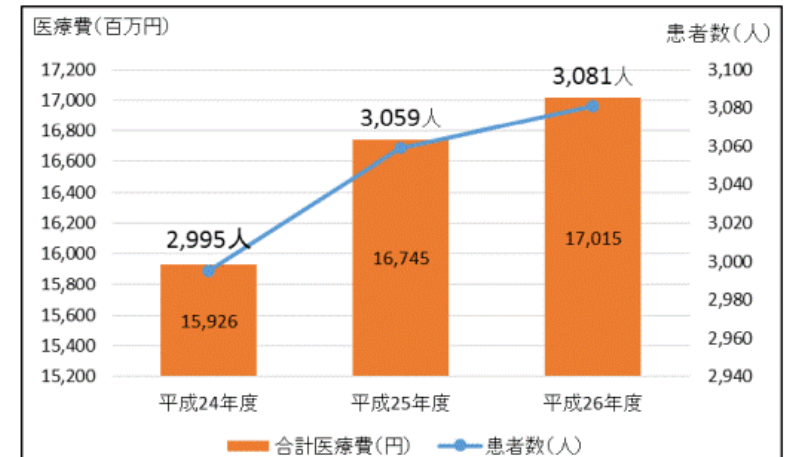
- 健康診査結果から一定基準を満たす糖尿病未治療者に対する文書・電話等による医療への受診勧奨の実施（対象：国保加入者）
- 個別保健指導プログラム委託（対象：国保加入者）
- 区福祉保健センターでの生活習慣改善相談・集団健康教育の実施
- 市糖尿病重症化予防ネットワーク検討会開催

この6年間の主な動き

- 2019 第2期横浜市国民健康保険保健事業実施計画（データヘルス計画）
- 2020 第4次「対糖尿病戦略5ヵ年計画」（一般社団法人日本糖尿病学会）

参考データ・図

【図 1-14】人工透析の医療費、患者数（平成 26 年度）



【図 1-16】人工透析有無による比較

(患者数、レセプト件数、合計医療費、患者一人当たり医療費) (平成 26 年度)

	患者数(人)	レセプト件数(件)	合計医療費(円)	患者一人当たり医療費(円)
透析	3,081	105,346	17,015,236,500	5,522,634
透析以外	801,389	12,500,241	227,775,148,420	284,225

(5 疾病) 精神疾患

概要

- ✓ 保健・医療・福祉関係者による協議の場を通じて、精神科医療機関、その他医療機関及び地域援助事業所などとの重層的な連携による支援体制を構築する
- ✓ 依存症対策地域支援事業の実施や自殺対策基本法の改定など国等の動向を踏まえた施策を展開

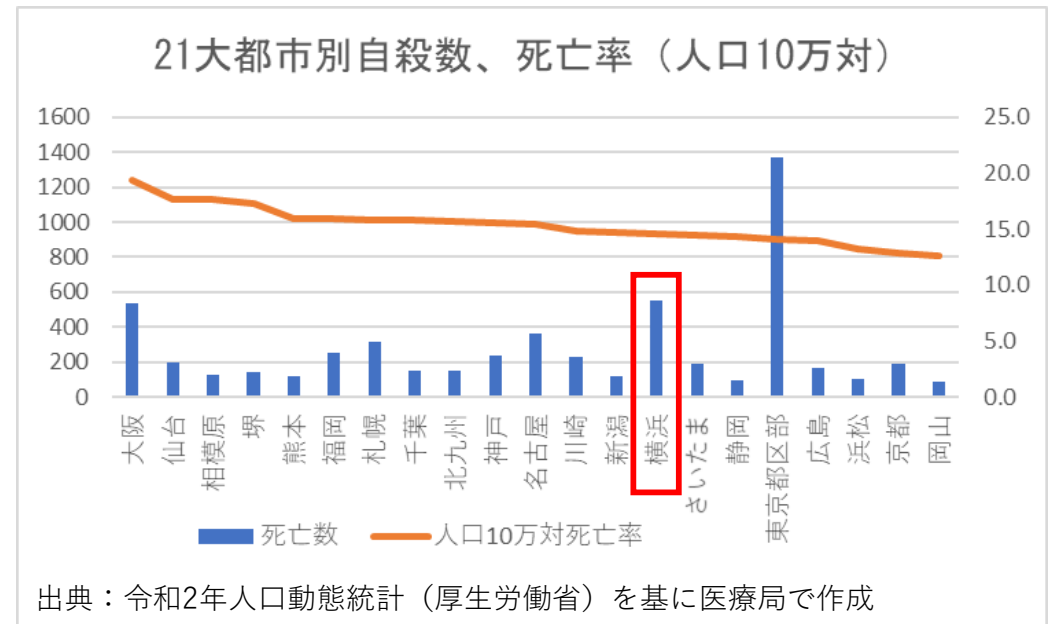
市の主な施策

- 県及び県内他政令市とともに、緊急に精神科医療を必要とする方が、迅速かつ適切な医療につながる体制の確保
- 措置入院者等の退院後の支援計画作成等支援
- 依存症対策、自殺対策の推進
- 精神障害にも対応した「地域包括ケアシステム」の構築

この6年間の主な動き

- 2018 横浜市自殺対策計画
- 2021 横浜市依存症対策地域支援計画

参考データ・図



(4事業) 救急医療

※初期救急医療：自ら来院し外来治療のみで帰宅可能な軽症者に対応
 二次救急医療：主に救急車等により搬送され、入院が必要なケガや病気に対応
 三次救急医療：救急の最後の砦となり生命に危険のある重篤患者に対応

概要

- ✓ 本市の救急医療体制は、傷病者の症状や重症度に応じ重層的に体制を構築している
- ✓ また、疾患別の救急医療体制を確立しており、緊急性の高い傷病者を確実に救急医療機関へつなぐことができる医療提供体制の確保を目指す

市の主な施策

- 救急医療体制（初期・二次・三次）の確保・充実
- 横浜市救急医療検討委員会による検討
- 休日急患診療所の建替え支援
- 救急相談センター「#7119」の設置・周知
- ドクターカーシステムの整備

参考データ・図



出典：医療局作成

この6年間の主な動き

2020～ 新型コロナウイルス感染症に対する救急医療体制の確保

(4事業) 災害医療

概要

- ✓ 大規模地震等の災害発生に備え、市内の災害拠点病院（13か所）を中心に負傷者等への医療提供や地域医療機関の支援体制を構築している
- ✓ 災害時に医療的配慮を必要とする市民（透析・在宅酸素等）に対する体制整備を推進

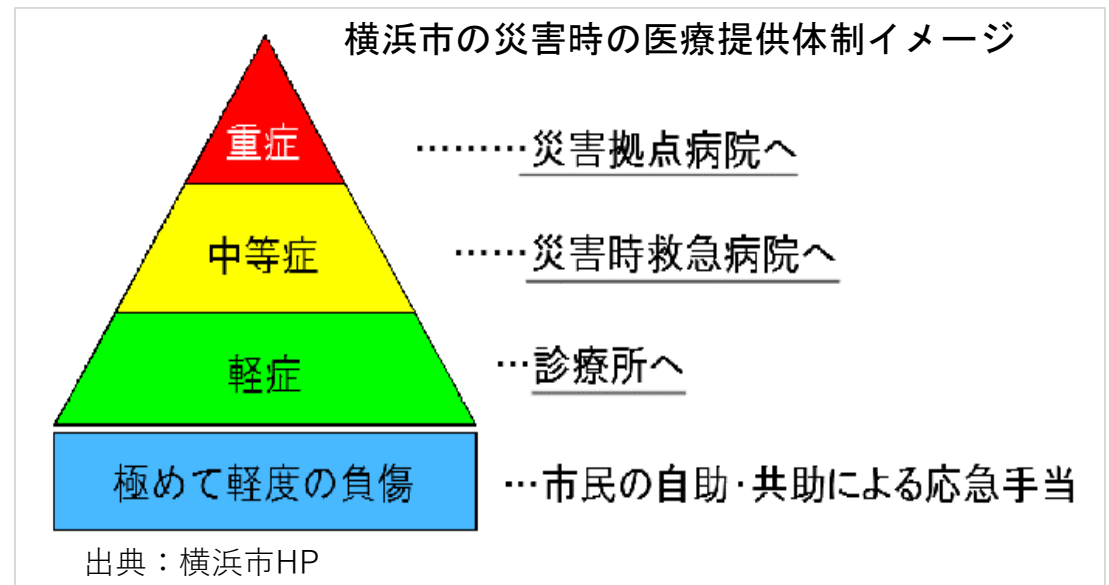
市の主な施策

- 医療救護隊用資器材・医薬品管理及び災害時通信機器の整備
- 横浜救急医療チーム（YMAT）の運営
- 横浜市災害支援ナース（Yナース）の確保育成
- 災害時に医療的配慮を必要とする市民（透析・在宅酸素等）に対する体制整備
- 大規模イベントにおける医療救護体制の構築

この6年間の主な動き

- 2019 ラグビーワールドカップ2019™ における医療救護体制の構築
- 2021 東京2020オリンピック・パラリンピックにおける医療救護体制の構築

参考データ・図



(4事業) 周産期医療

※周産期：主に妊娠22週から出生後7日未満の期間

概要

- ✓ 出産場所やNICU等周産期病床の確保とともに、市内3病院を産科拠点病院に指定し、周産期救急の質と安全性の向上を図ってきた
- ✓ 高齢出産等のリスクがある分娩への対応や、女性医師が多い産科医の勤務環境の改善などにより、安心して安全な出産ができる環境づくりを目指す

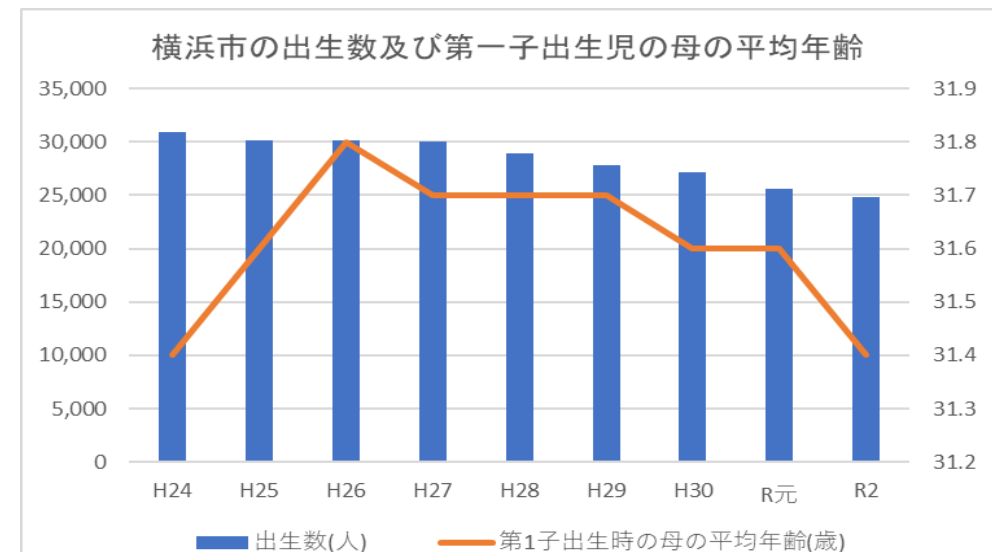
市の主な施策

- 産婦人科医師確保への支援
- NICU（新生児集中治療室）等の周産期病床を充実させる病院への支援
- 産科拠点病院の指定（市内3か所）

この6年間の主な動き

- ・産科病床に対する病床優先配分の廃止

参考データ



注) 出生数は各年1月1日から12月31日までの数

出典：平成24年～令和2年人口動態統計(厚生労働省)を基に医療局で作成

(4事業) 小児医療

概要

- ✓ 市内7病院を小児救急拠点病院に指定し、24時間365日対応できる小児救急医療体制を確保している
- ✓ 小児科医師の勤務環境の改善などを通じて小児医療体制を維持する
- ✓ 保健・医療・障害福祉・保育・教育等の関連分野の連携による医療的ケア児等支援に向けた体制の充実を図る

市の主な施策

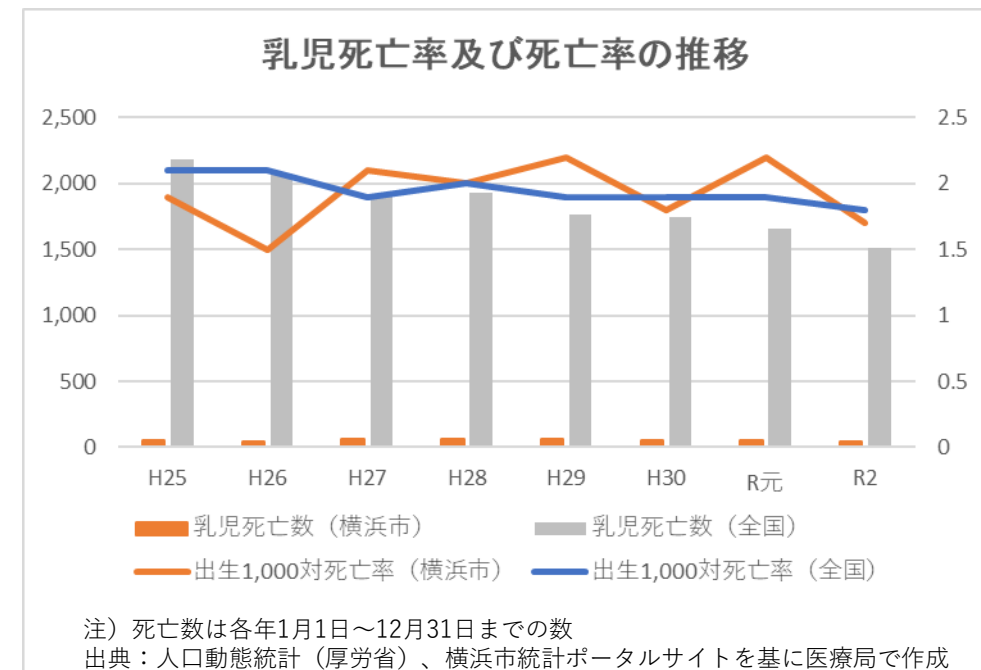
- 小児救急拠点病院（市内7か所）の確保
- 医療的ケア児・者等コーディネーターの配置
- こどもホスピス（在宅療養児等生活支援施設）への支援

この6年間の主な動き

2021 医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律

2021.11 横浜こどもホスピス開所（金沢区）

参考データ・図



在宅医療

概要

- ✓ 住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、医療・介護従事者の人材育成や多職種連携の更なる推進など、在宅医療の充実を図る
- ✓ 医療・介護の連携により、「横浜型地域包括ケアシステム」の実現に寄与する

市の主な施策

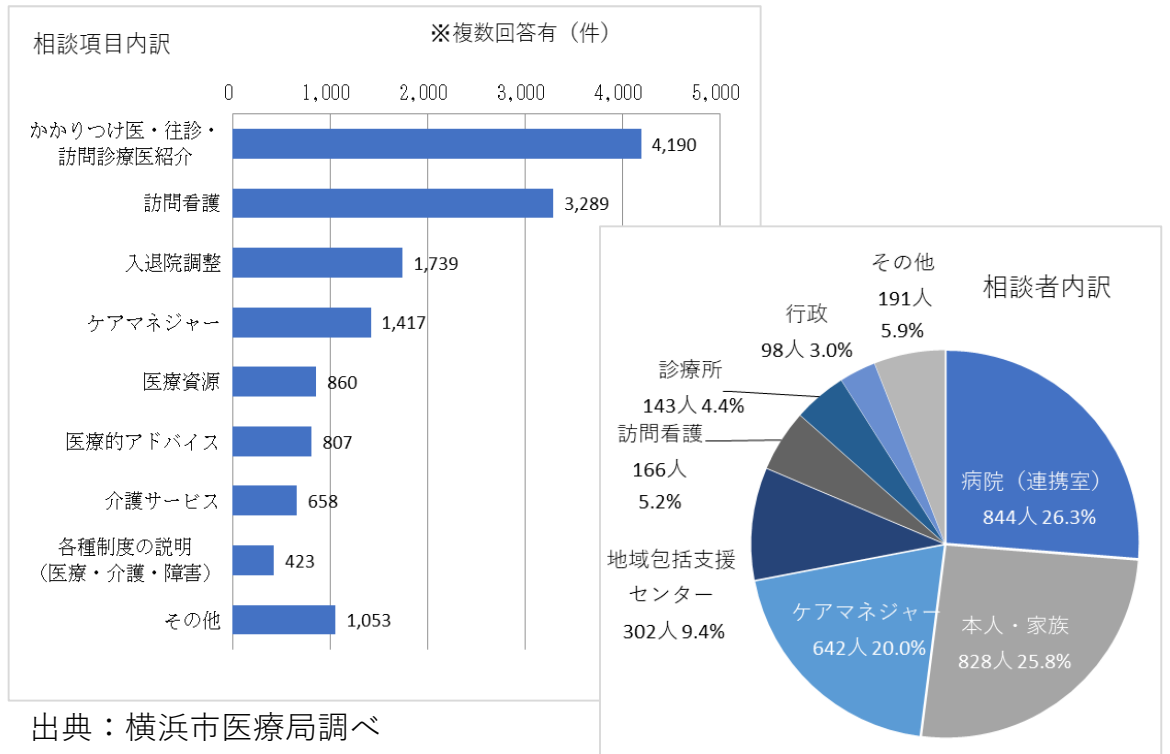
- 在宅医療や人生の最終段階に関する医療等について市民の理解を促進するための普及・啓発
- 在宅医療連携拠点を中心とした医療・介護に関わる多職種連携の強化
- 誤嚥性肺炎等対策のため、在宅歯科医療サービスを提供する担い手の育成支援

この6年間の主な動き

2021 第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画・認知症施策推進計画（よこはま地域包括ケア計画）策定

参考データ・図

令和2年度 横浜市在宅医療連携拠点事業実績（18区合計）



- 第8次医療計画の策定に向け、「第8次医療計画等に関する検討会」を立ち上げて検討。
- 現行の医療計画における課題等を踏まえ、特に集中的な検討が必要な項目については、本検討会の下に、以下の4つのワーキンググループを立ち上げて議論。
- 新興感染症等への対応に関し、感染症対策（予防計画）に関する検討の場と密に連携する観点から、双方の検討会・検討の場の構成員が合同で議論を行う機会を設定。

第8次医療計画等に関する検討会

- 医療計画の作成指針（新興感染症等への対応を含む5疾病6事業・在宅医療等）
- 医師確保計画、外来医療計画、地域医療構想 等

※具体的には以下について検討する

- ・医療計画の総論（医療圏、基準病床数等）について検討
- ・各検討の場、WGの検討を踏まえ、5疾病6事業・在宅医療等について総合的に検討
- ・各WGの検討を踏まえ、地域医療構想、医師確保計画、外来医療計画について総合的に検討

※医師確保計画及び外来医療計画については、これまで「医師需給分科会」で議論してきており、次期計画の策定に向けた議論については、本検討会で議論。

【新興感染症等】

感染症対策（予防計画）に関する検討の場 等

【5疾病】

各疾病に関する検討の場 等

連携

報告

地域医療構想及び医師確保計画に関するWG

- 以下に関する詳細な検討
- ・医師の適正配置の観点を含めた医療機能の分化・連携に関する推進方針
- ・地域医療構想ガイドライン
- ・医師確保計画ガイドライン 等

外来機能報告等に関するWG

- 以下に関する詳細な検討
- ・医療資源を重点的に活用する外来
- ・外来機能報告
- ・地域における協議の場
- ・医療資源を重点的に活用する外来を地域で基幹的に担う医療機関 等

在宅医療及び医療・介護連携に関するWG

- 以下に関する詳細な検討
- ・在宅医療の推進
- ・医療・介護連携の推進 等

救急・災害医療提供体制等に関するWG

- 以下に関する詳細な検討
- ・第8次医療計画の策定に向けた救急医療提供体制の在り方
- ・第8次医療計画の策定に向けた災害医療提供体制の在り方 等

* へき地医療、周産期医療、小児医療については、第7次医療計画の策定に向けた検討時と同様、それぞれ、以下の場で専門的な検討を行った上で、「第8次医療計画等に関する検討会」に報告し、協議を進める予定。

・へき地医療

厚生労働科学研究の研究班

・周産期医療、小児医療

有識者の意見交換

国の検討状況について 「第8次医療計画等に関する検討会」等資料より

各都道府県における第8次医療計画策定に向けた「医療計画作成指針」等については、現在、国において検討が進められています。

本市の「よこはま保健医療プラン」も医療計画に準じて策定をしていきますが、国の「医療計画作成指針」等は、令和4年度末頃に示される予定のため、国の検討状況等も注視しながら、計画の骨子案の検討を開始していきます。

■ 5 疾病について

<がん関連>

- がん診療連携拠点病院等の整備指針の見直し
 - ・ 都道府県内で拠点病院等が連携して対応する協議会の機能強化と、希少がんや特殊な治療法についての役割分担の明確化
 - ・ 「都道府県がん診療連携拠点病院」「特定領域がん診療連携拠点病院」「地域がん診療病院」に特例型を新設。地域がん診療連携拠点病院（高度型）は廃止。

<脳卒中関連、心血管疾患関連>

- 循環器病対策推進基本計画
 - ・ 「循環器病の予防や正しい知識の普及啓発」「保健、医療及び福祉に係るサービス提供体制の充実」「循環器病の研究推進」に取り組むことで、2040年までに3年以上の健康寿命の延伸、年齢調整死亡率の減少を目指す。
- ※令和4年3月に神奈川県循環器病対策推進基本計画を策定。

<糖尿病関連>

- 第8次医療計画に向けた指標の見直し
 - ・ 予防段階のプロセス指標やストラクチャー指標を増やすことが必要。また、患者数を把握するための適切な指標について検討すべき。
 - ・ 健康日本21（第二次）や医療費適正化計画（第4期）等、他計画との連携

<精神疾患関連>

- 「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に係る検討会」での報告
 - ・ 平時への対応の充実と精神科救急医療体制をはじめとする患者の緊急のニーズへの対応
 - ・ 障害福祉計画、介護保険事業（支援）計画と相互に連携し、医療、障害福祉・介護、住まい、就労等の社会参加医、地域の助け合い、教育・普及啓発が包括的に確保された体制の整備
- 第8次医療計画における指標例の検討
- 精神病床における基準病床数の算定式の検討
 - ・ 近年、精神病床における入院患者数は減少傾向にあることを勘案すべきである。その際、政策効果と政策効果以外の影響についても勘案できるものとすべきである。

■ 4 事業及び在宅医療について

<救急医療>

- 救急医療機関の役割分担
 - ・ 増加が見込まれる高齢者の救急搬送への対応、三次救急医療機関の位置づけ（二次救急医療機関で対応できない事例への対応）、働き方改革を踏まえた救急医療機関の機能分化、拠点化の推進
- 在宅・介護施設の高齢者の対応
 - ・ かかりつけ医を中心とする外来・在宅医療の充実とACPの推進
 - ・ 消防機関、救急医療機関、かかりつけ医、介護施設等の連携・協議する体制の構築
- 新型コロナウイルス感染症まん延時における救急医療

<災害時医療>

- 災害派遣医療チーム（DMAT）等の法令上の位置づけ、派遣や活動の円滑化
災害派遣性精神科医療チーム（DPAT）の新興感染症対応の位置づけ、看護師の派遣の仕組み
- 災害拠点精神科病院の整備の推進
- 災害拠点病院等における豪雨災害の被害を軽減するための体制の構築

<周産期（救急）医療>

- 無産科周産期医療圏への対応と周産期医療圏の見直し
- 周産期医療に係る人材育成や新興感染症まん延時の周産期医療
- 医療の質の向上と安全性の確保（ハイリスク妊産婦への対応、NICUの集約化・重点化など）
- 医師の働き方改革への対応（周産期医療機能の集約化・重点化、院内助産所や助産師外来の活用推進）
- 参加混合病棟のあり方

<小児（救急）医療>

- 小児医療圏の明確化と小児救急医療圏の一本化
- 外因性疾患への対応、新興感染症まん延時の小児医療体制
- 小児医療機能の集約化・重点化、NICUの集約化・重点化、ICTの活用
- 医療的ケア児への対応

<在宅医療>

- 量の拡充（医療機関数、事業所の増加）やグループ化、情報通信機器等の活用も含めた、効果的・効率的な在宅医療提供体制の整備
- 在宅医療を担う医療機関と救急医療機関・消防機関との連携強化、ICTを活用した病診連携・診診連携・多職種連携の体制整備
- 訪問歯科診療、訪問薬剤管理指導、訪問リハビリテーション、訪問栄養食事指導の在宅医療への関わり

■ 新興・再興感染症について（4事業に追加予定）

- 「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律等の一部を改正する法律案」（臨時国会で審議）

横浜市民の医療に関する意識調査 実施案

1 調査の目的

市民のみなさんが、自分や家族が医療機関を受診する際に、どのように情報を得て、何を基準に医療機関を選択しているのか、医療に関してどのようなことを知りたいのか、どのような医療の充実を望んでいるのかなどを把握し、「よこはま保健医療プラン2024」の策定に向けた検討に活用する。

2 調査概要 (前回調査：郵送のみ、回収率 45.8%)

- 調査対象： 18歳以上の横浜市民3,000人（外国籍の方も含む）
※住民基本台帳からの無作為抽出による
- 調査期間： 11月22日（火）～12月21日（水）
- 調査方法： 郵送配布、郵送・インターネット回答

★調査結果（速報）は、第2回策定検討部会にて報告予定です。

調査項目の構成 (案)

基礎項目

- ・年齢 ・性別 ・居住区 ・職業
- ・子どもの有無 ・家族形態
- ・通院先の有無、種類
- (通院している場合) 慢性疾患の種類
- ・かかりつけ医の有無
- (いない場合) その理由
- ・医療機関の役割分担の認知度
(1次・2次・3次)
- ・病院の役割分担の認知度
(急性期・回り八・療養)

発熱時の行動・考え方

- ・最初にとる行動
- ・医療機関の探し方
- ・医療機関を選ぶときに重視する点

大きな手術や長期療養時の行動・考え方

- ・知りたいこと
- ・情報の探し方
- ・人生の最終段階における医療
これまで考えたことがあるか、
家族等と話し合ったことはあるか、
どこで迎えたいか
- ・「人生会議」の認知度

- ・自宅で療養する場合、在宅医療を望むか
- ・自宅で療養する場合、心配なこと
- ・在宅医療の情報収集の方法
- ・自己決定のために必要なこと

急病時の対応

- ・すぐに受診が必要か、救急車を呼ぶべきかの相談方法
- ・今すぐに診療可能な医療機関を探したいときの相談方法

がん対策

- ・治療法や病院に関する情報の探し方
- ・治療と日常生活の両立ができると思うか → 両立するための条件
- ・痛みを伴うがんの療養場所

食中毒や感染症の予防

- ・感染症や食中毒予防のために日常的に取っている対策
- ・知っている感染症の名前

こころの病気

- ・こころの不調を感じたときの行動
- ・知りたいこと

歯と歯科診療

- ・歯・口の状態で気になること
→ その症状
- ・かかりつけ歯科医の有無
→ (いる場合) その種類
→ (いない場合) 理由
- ・年1回以上受診しているか
→ (受診した場合) 診療内容

薬と薬局

- ・ジェネリックの選択意向
- ・かかりつけ薬局、お薬手帳の有無
→ (いない場合) 理由

医療への満足度

- ・医療に関する情報の入手方法
- ・医療への満足度
- ・今後充実を希望する医療

※赤字は新規で追加または前回調査から設問を変更した項目です。

前回調査（H28）からの 主な変更点

■ 基礎項目 に属性に関する設問を追加

子どもの有無、家族形態、慢性的な疾患の有無を追加することで、ほかの項目とクロスをかけて、分析に役立てます。

■ 人生の最終段階における医療 の設問追加

新規項目として、今回の調査から設問に追加します。

■ 急病時の対応、がん対策、こころの病気 に関する設問を一部変更

【参考資料】

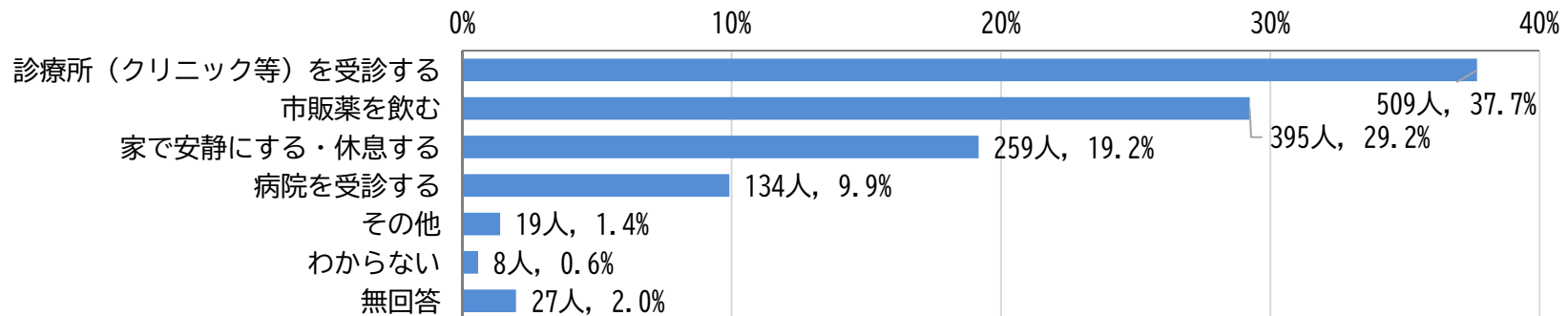
前回（2016年）調査の結果概要

視点1 市民の受療行動（発熱時）

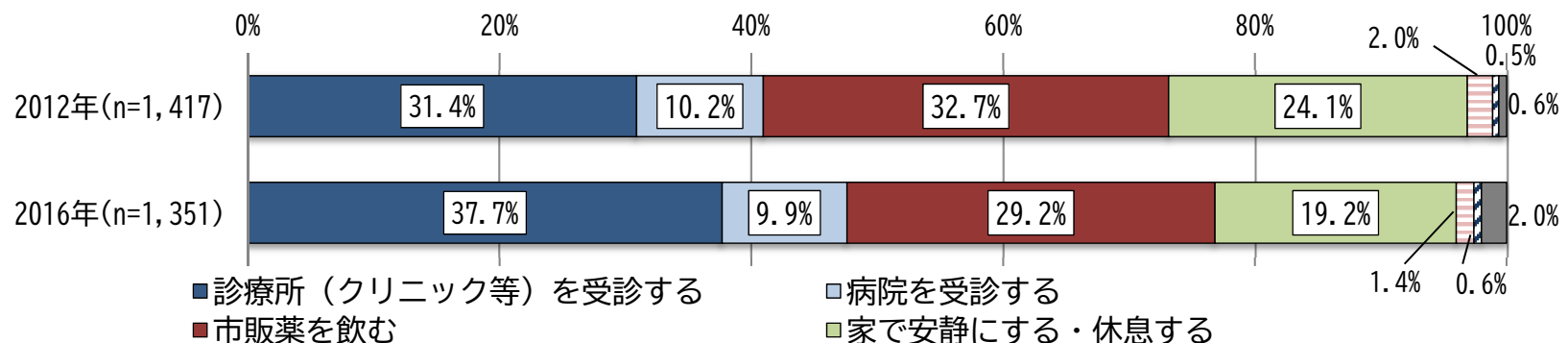
！ポイント

・比較的に軽い症状の時に最初にとる行動は、「診療所（クリニック等）を受診する」が37.7%と最も高く、2012年調査と比べて、6.3ポイント増となっている。

発熱等で最初にとる行動（n=1,351）



【経年比較】発熱等で最初にとる行動



【参考資料】

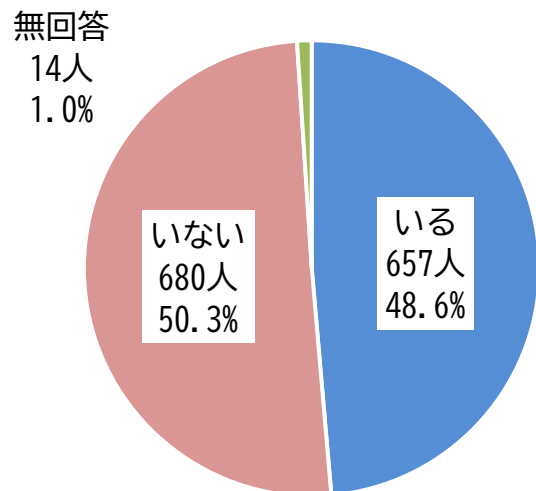
前回（2016年）調査の結果概要

視点2 かかりつけ医

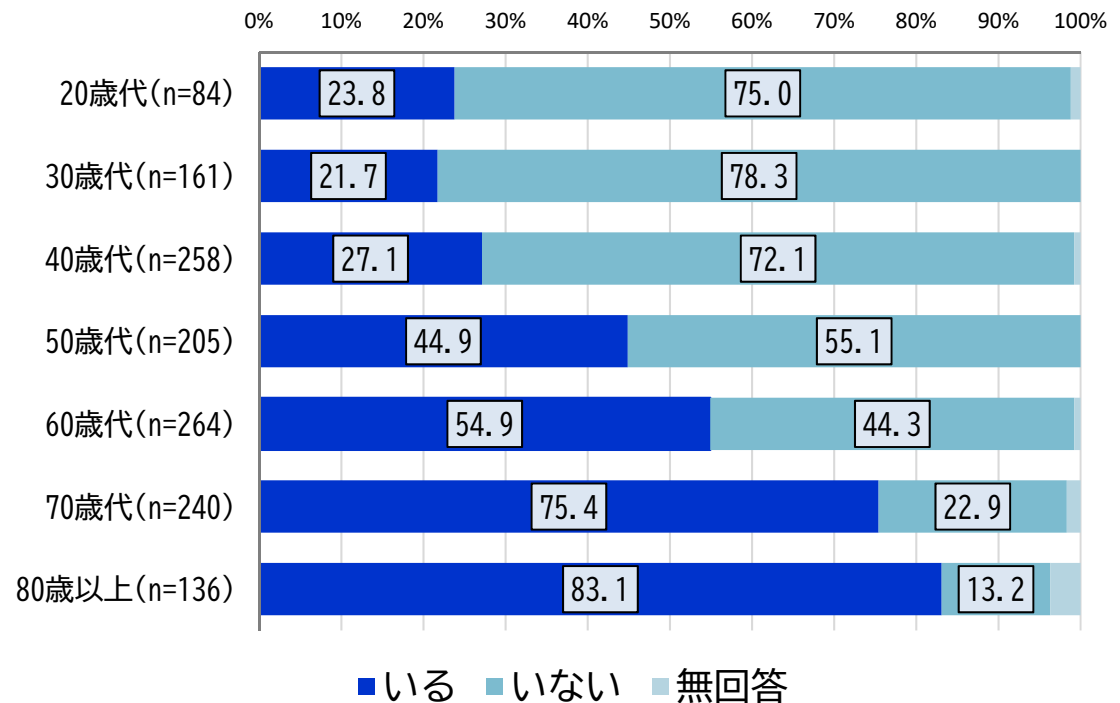
！ポイント

- ・約半数（48.6%）が「かかりつけ医がいる」と回答した。
- ・2012年調査では「かかりつけ医がいる」と回答した割合は47.0%とほぼ横ばいである。
- ・20歳代（23.8%）、30歳代（21.7%）では割合が低く、70歳代（75.4%）、80歳以上（83.1%）と高齢になるにつれ、かかりつけ医がいる人の割合が高くなっていく。

かかりつけ医の有無（n=1,351）



【年齢別】かかりつけ医の有無



【参考資料】

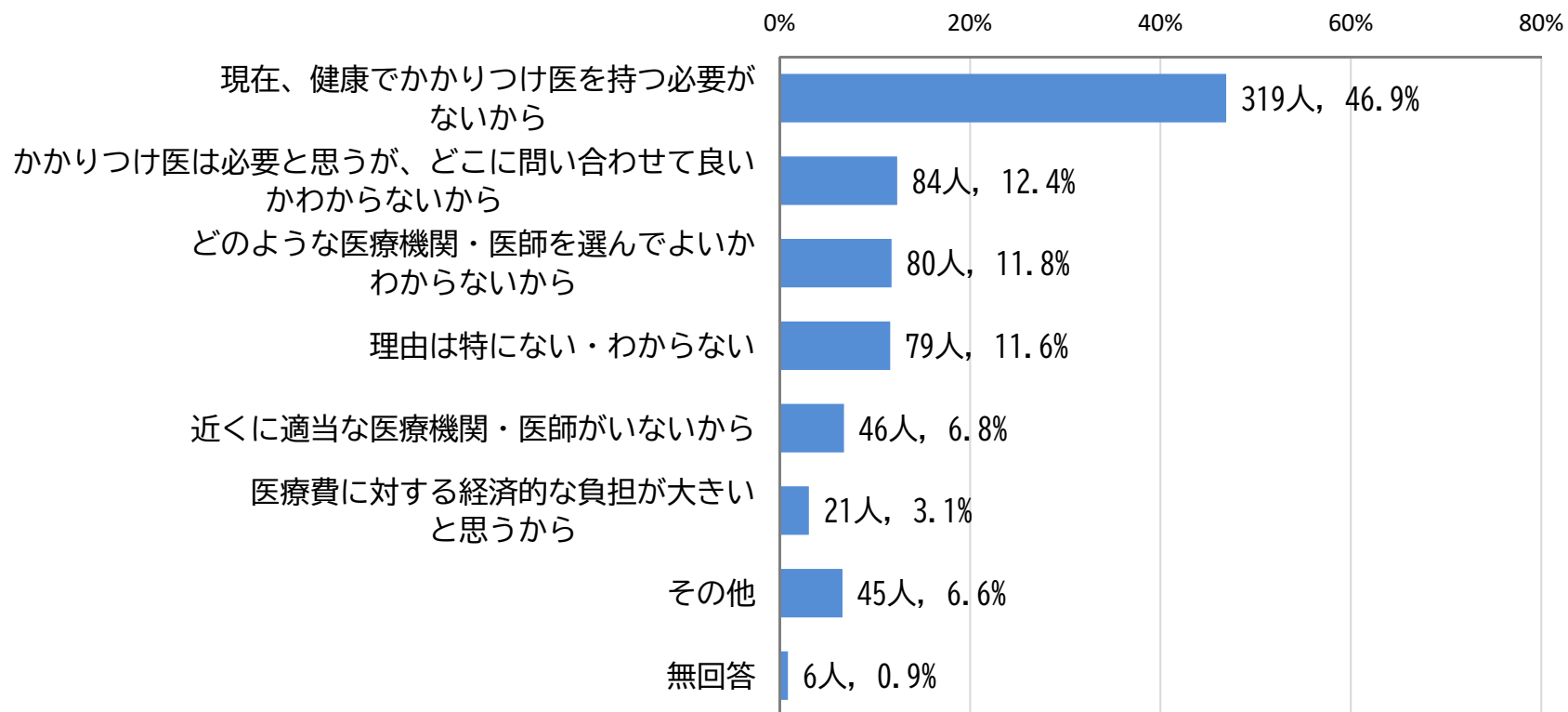
前回（2016年）調査の結果概要

視点2 かかりつけ医

📌ポイント

・かかりつけ医がない理由は、「現在、健康でかかりつけ医を持つ必要がないから」（46.9%）が4割台半ばを超え、もっとも割合が高い。

かかりつけ医がない理由（n=680）



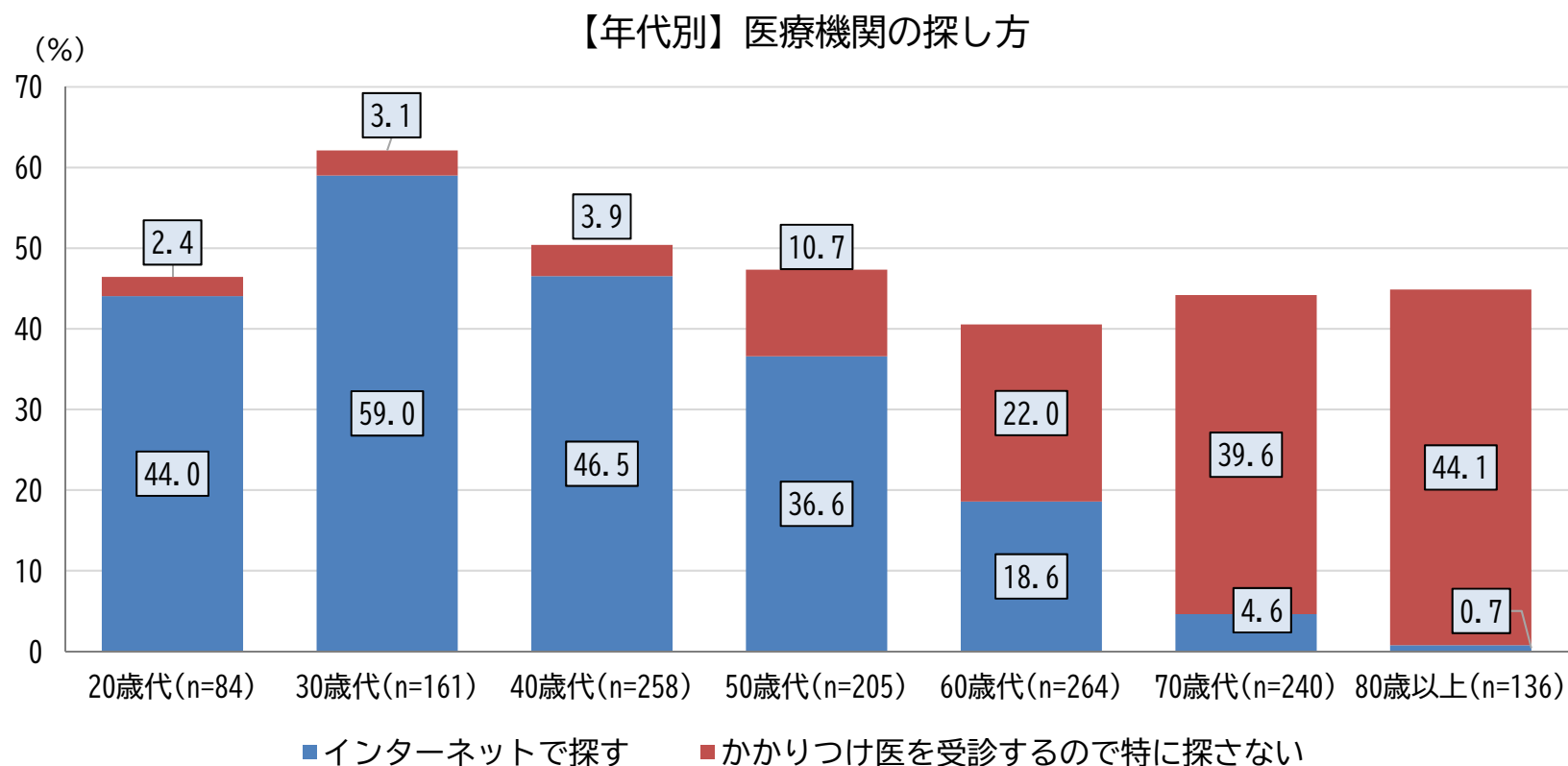
【参考資料】

前回（2016年）調査の結果概要

視点2 かかりつけ医

💡ポイント

・医療機関の探し方を年齢別に比較をしてみると、若い年齢層では「インターネットで探す」割合が高く、高齢になるにつれて「かかりつけ医を受診するので特に探さない」割合が高くなっている。



【参考資料】

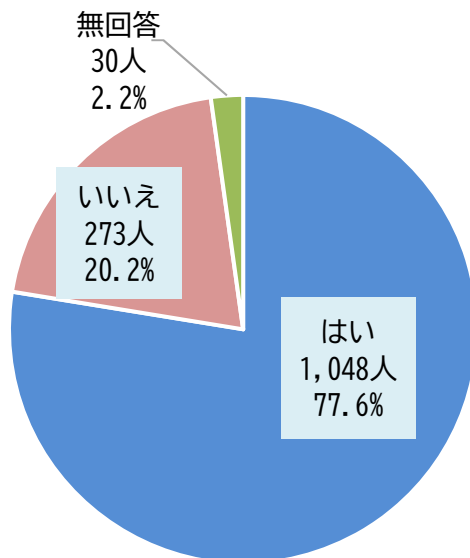
前回（2016年）調査の結果概要

視点3 かかりつけ歯科医

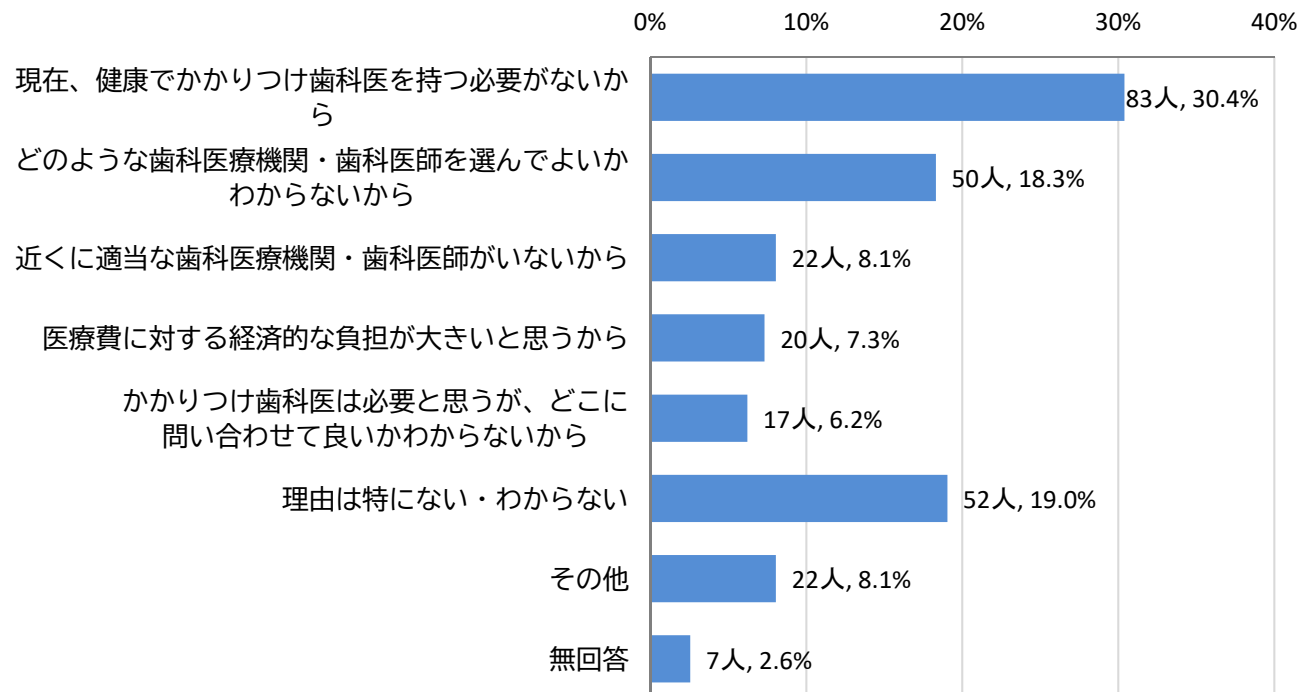
！ポイント

- ・かかりつけ歯科医について、約4人に3人が「あり」と答えている（77.6%）。
- ・2012年調査では、73%が「かかりつけ歯科がいる」と回答しており、4.6ポイント増。
- ・いない理由は、「現在、健康でかかりつけ歯科医を持つ必要がないから」が約3割でもっとも高いが、「どのような医療機関を選んでよいか分からない(12%)」「必要と思うがどこに問い合わせたよいか分からない(15%)」と回答する人の合計は37.3%に上る。

かかりつけの歯科医院（診療所）の有無（n=1,351）



かかりつけ歯科医院がない理由（n=273）



【参考資料】

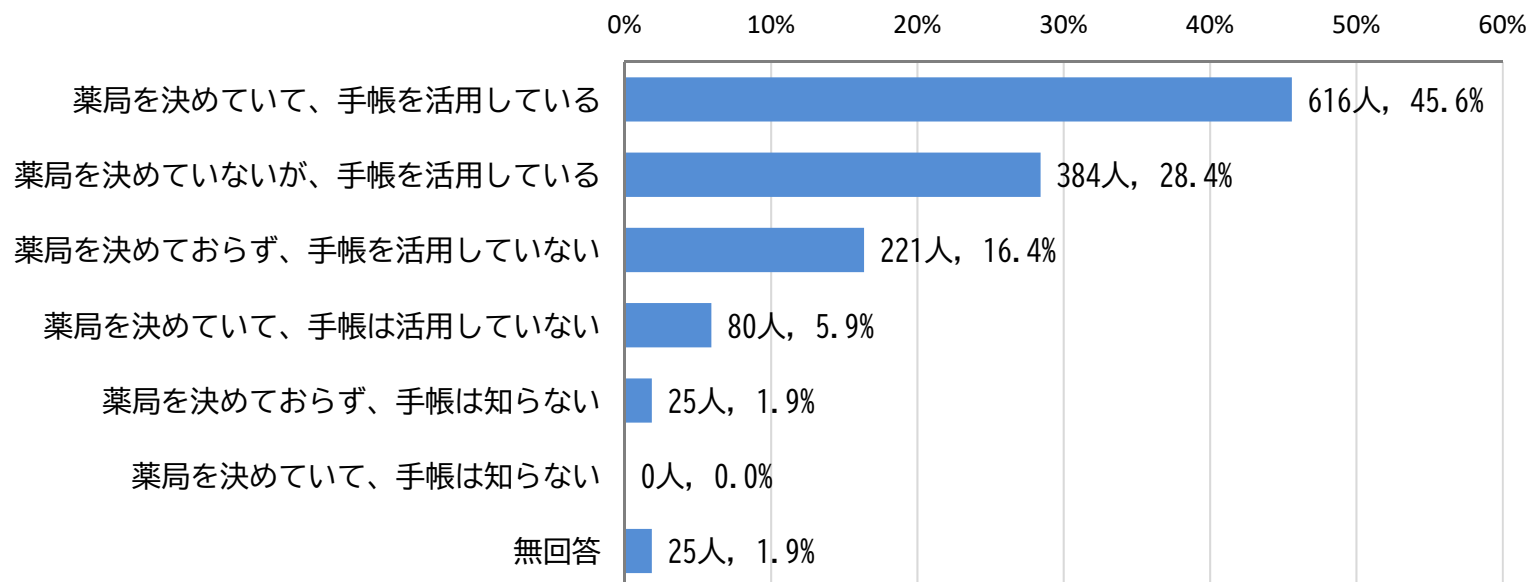
前回（2016年）調査の結果概要

視点4 かかりつけ薬局・お薬手帳の活用

💡ポイント

- ・「薬局を決めていて、手帳を活用している」が45.6%ともっとも高かった。
- ・「かかりつけ薬局がある」と回答した割合は、合計51.5%。（2012年調査 47%）
- ・「手帳を活用している」と回答した割合は合計74.0%となり、4人に3人がお薬手帳を活用している。（2012年調査 51%）

かかりつけ薬局の有無と「おくすり手帳」の活用状況（n=1,351）



【参考資料】

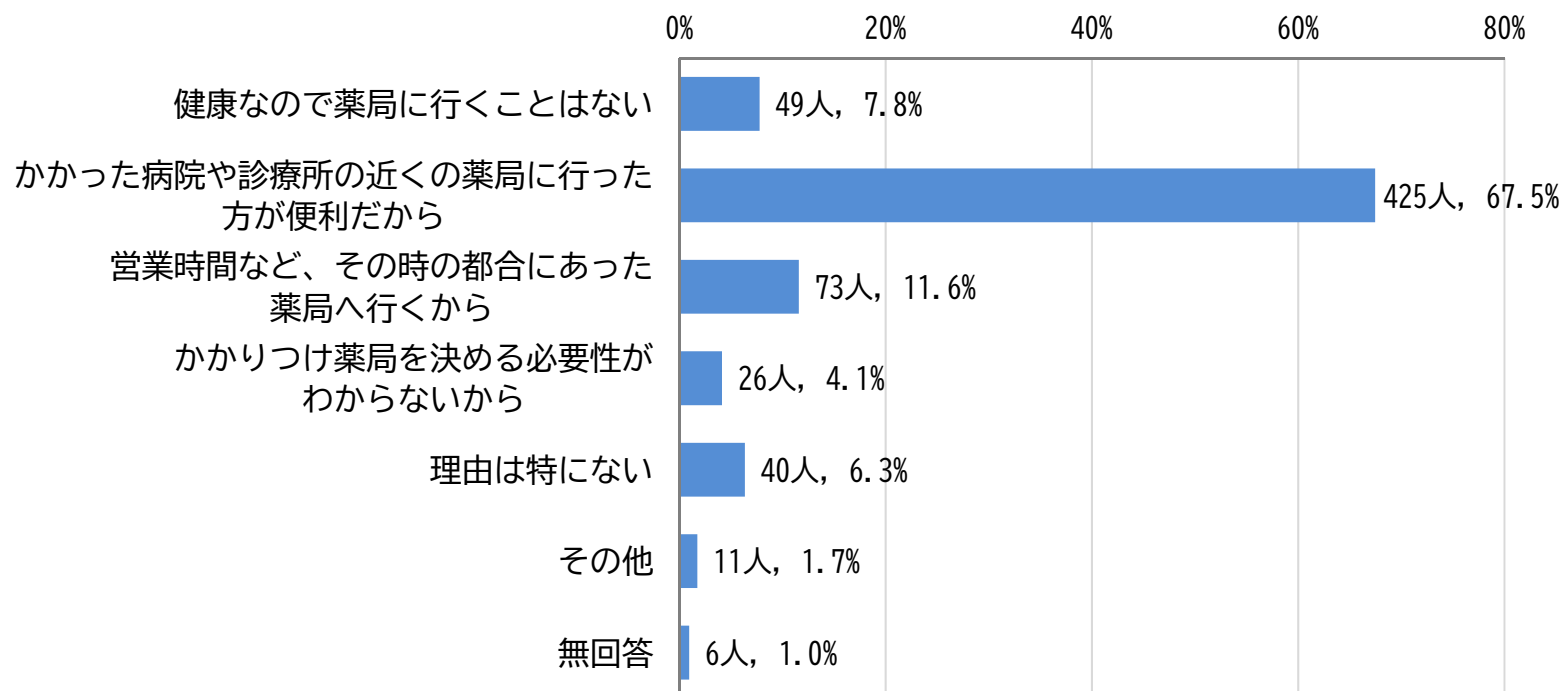
前回（2016年）調査の結果概要

視点4 かかりつけ薬局・お薬手帳の活用

💡ポイント

・かかりつけ薬局がない理由は、「かかった病院や診療所の近くの薬局に行った方が便利だから」が67.5%と最も高かった。

かかりつけ薬局を決めていない理由（n=630）



【参考資料】

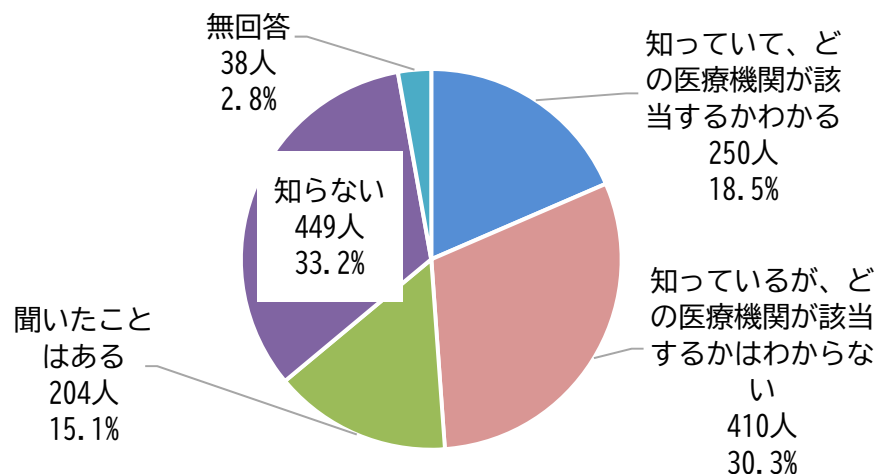
前回（2016年）調査の結果概要

視点5 医療機関の役割分担の認知度

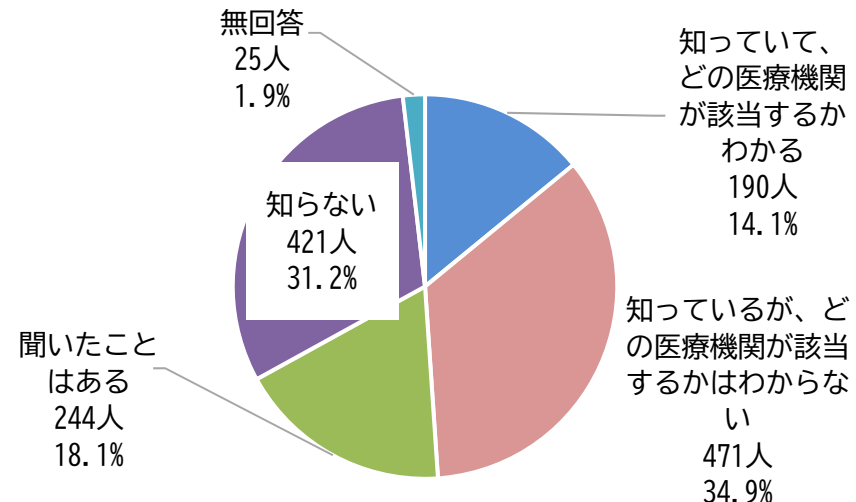
！ポイント

- ・一次・二次・三次医療機関の役割分担については、「知らない」が3割台半ば近くでもっとも多く、「知っているが、どの医療機関が該当するかはわからない」が約3割で第2位。
- ・急性期病院・回復期リハビリテーション病院・療養病院の役割分担については、「知っているが、どの医療機関が該当するかはわからない」の割合がもっとも多く、次いで「知らない」が第2位。

医療機関の役割分担
(一次・二次・三次医療機関)
役割分担 認知状況 (n=1,351)



病院の役割分担
(急性期・回りハ・療養病院)
役割分担 認知状況 (n=1,351)



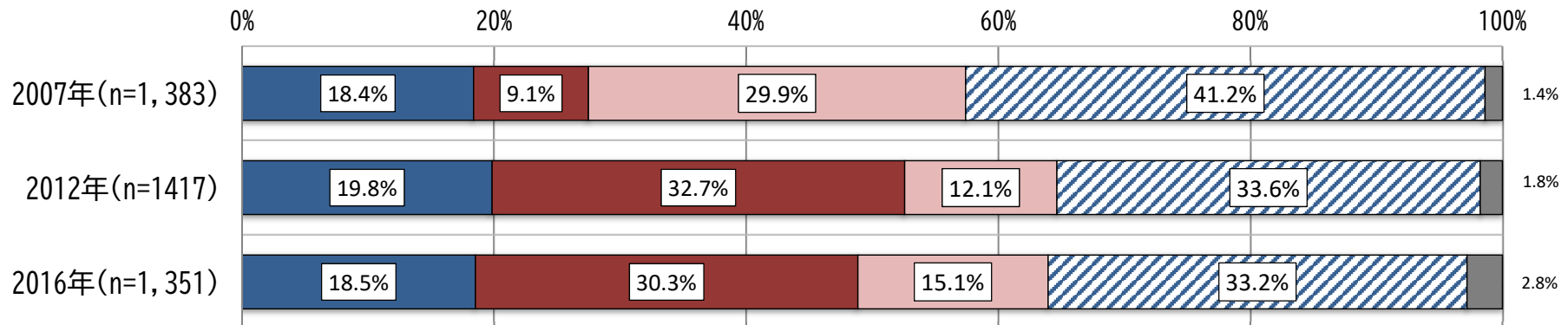
【参考資料】

前回（2016年）調査の結果概要

視点5 医療機関の役割分担の認知度

- ・ 2007年調査及び2012年調査と比較をしてみると、「知っているどの医療機関が該当するかわかる」の割合は、多少の上下はあるがあまり差がなかった。
- ・ 「知っているが、どの医療機関が該当するかわからない」の割合は、2007年調査に比べると21.2ポイント増えているが、2012年調査からは2.4ポイント下がった。
- ・ 「知らない」の割合は、2007年調査に比べると8.0ポイント下がっており、2012年調査からはほぼ同じである。

医療機関（一次・二次・三次）の役割分担の認知状況（経年比較）



- 知っているどの医療機関が該当するかわかる
- 知っているがどの医療機関が該当するかはわからない
- 聞いたことはある
- 知らない
- 無回答

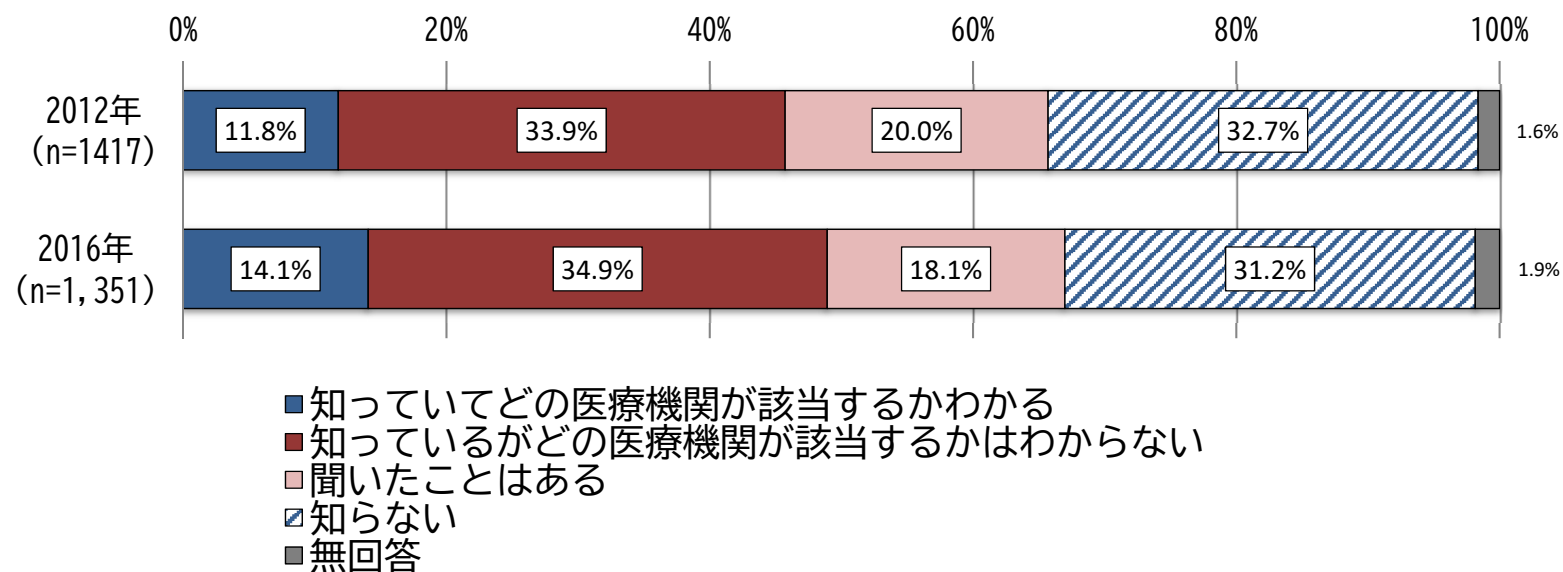
【参考資料】

前回（2016年）調査の結果概要

視点5 医療機関の役割分担の認知度

- ・ 2012年調査と比べて「知っているどの医療機関が該当するかわかる」の割合は2.3ポイント、「知っているが、どの医療機関が該当するかわからない」の割合は1.0ポイント上がった。
- ・ 「知らない」の割合は1.5ポイント下がった。

病院の役割分担（急性期・回リハ・療養病院）の認知状況（経年比較）



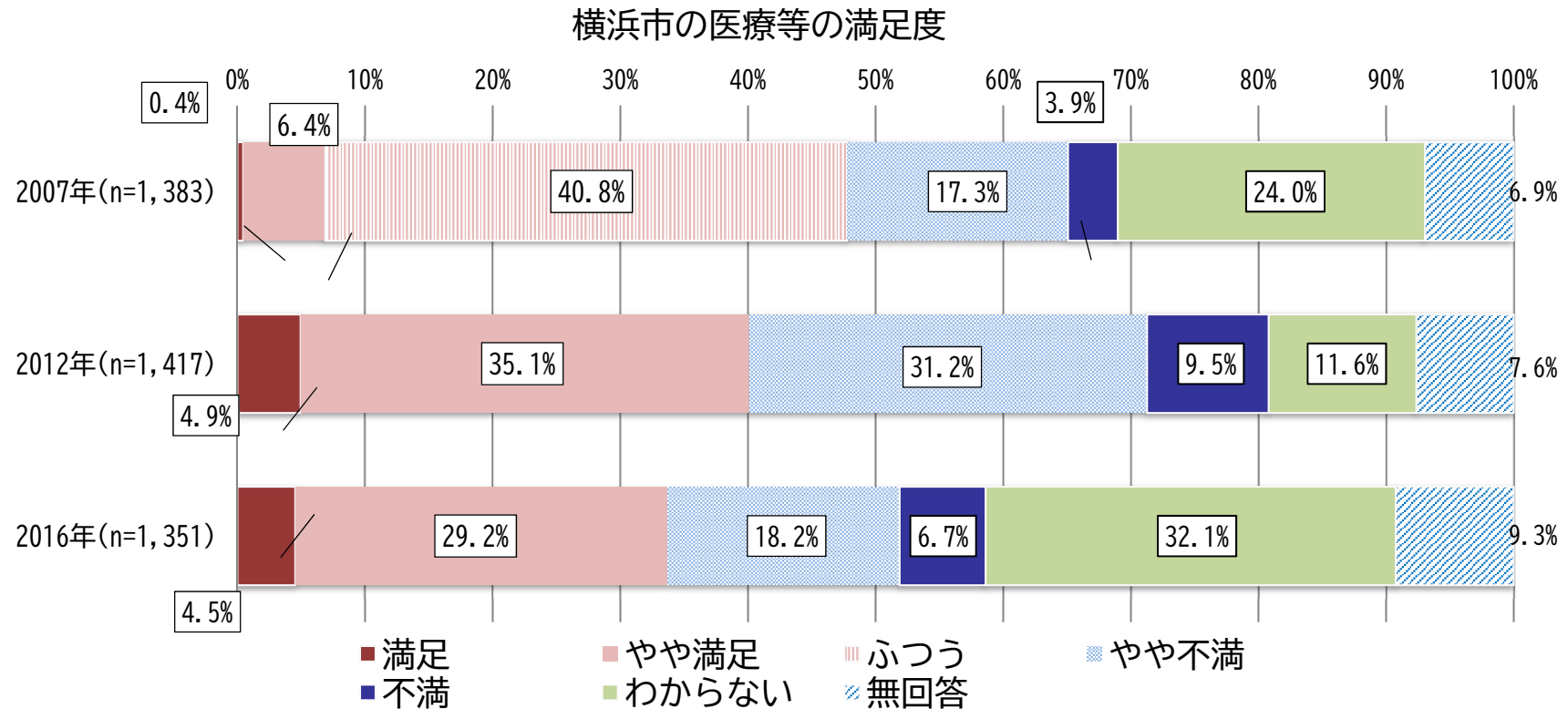
【参考資料】

前回（2016年）調査の結果概要

視点6 横浜市の医療等の満足度

！ポイント

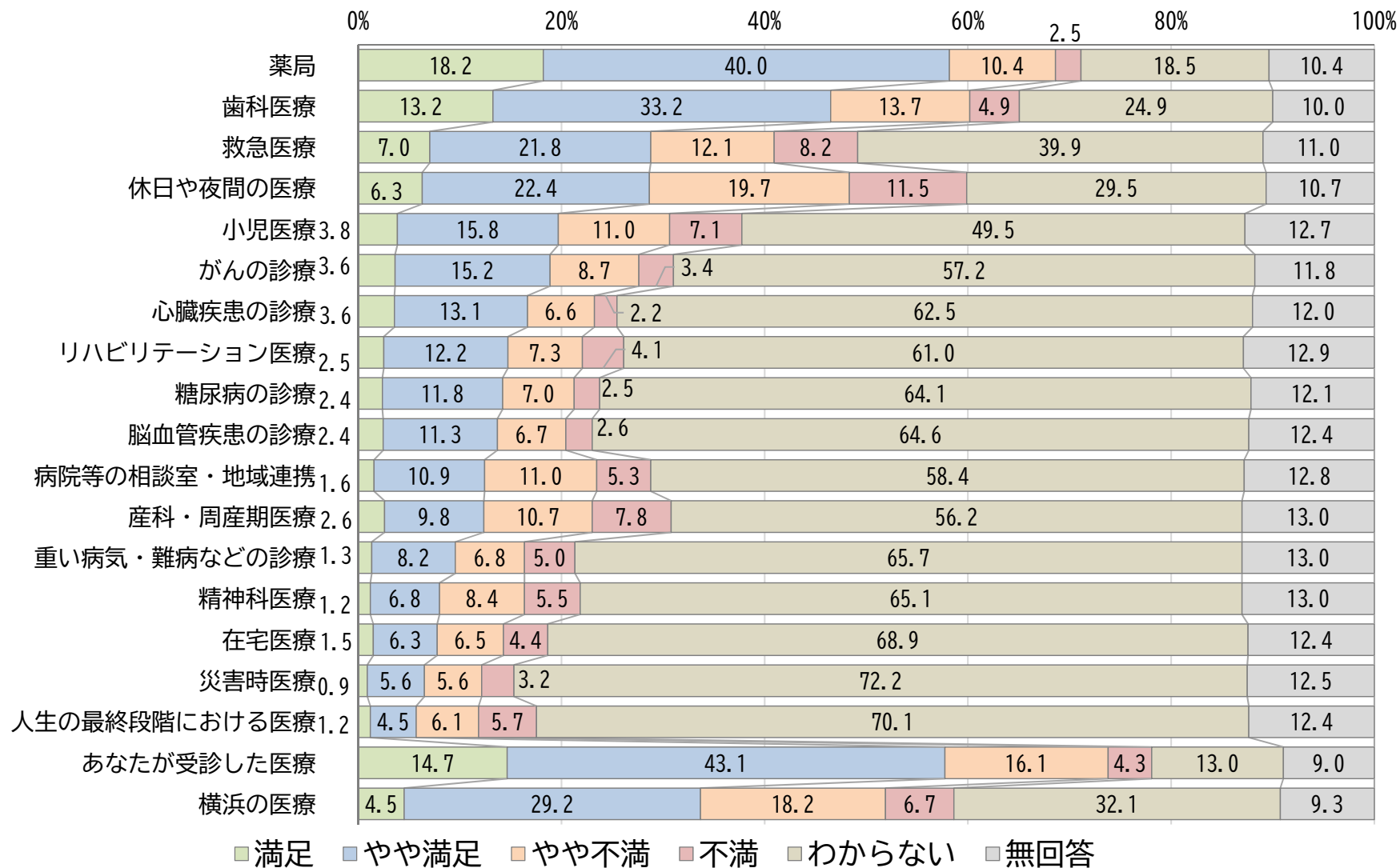
・2012年調査では、「満足」と「やや満足」を足した『満足』と「やや不満」と「不満」を足した『不満』は拮抗していたが、2016年調査では『満足』の割合は33.7%となり、『不満』の割合24.9%を8.8ポイント上回った。ただし、「わからない」の割合は20.5ポイント増となっている。



【参考資料】

前回（2016年）調査の結果概要

視点6 横浜市の医療等の満足度（診療内容別）



【参考資料】

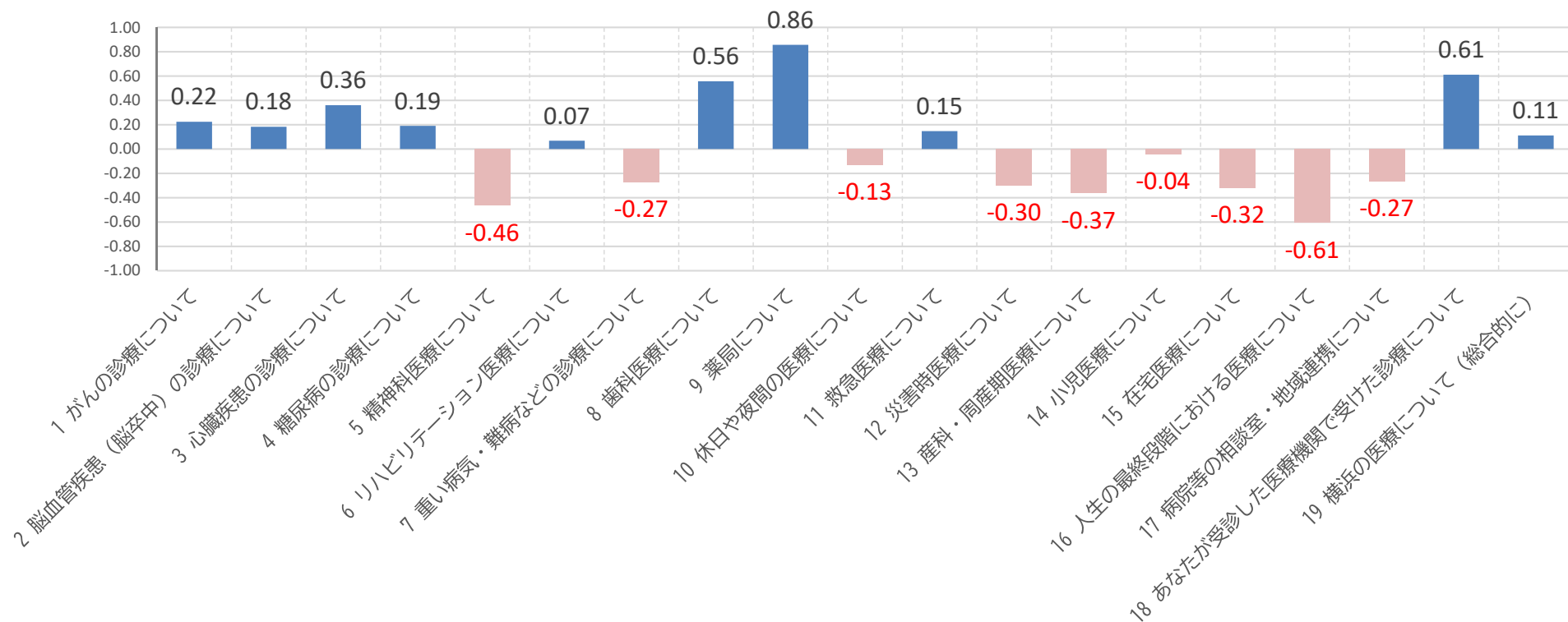
前回（2016年）調査の結果概要

視点6 横浜市の医療等の満足度（診療内容別）

加重平均による満足度の算出を試みたところ、「薬局」の評価点が0.86ともっとも高く、「人生の最終段階における医療」の評価点が-0.61ともっとも低かった。

<評価点の算出式>

「満足」を2点、「やや満足」を1点、「やや不満」を-1点、不満を-2点とし、母数（全数から「分からない」「無回答」を除いた数）で割った数。2.00点に近いほど満足度が高く、-2.00に近いほど満足度が低い。



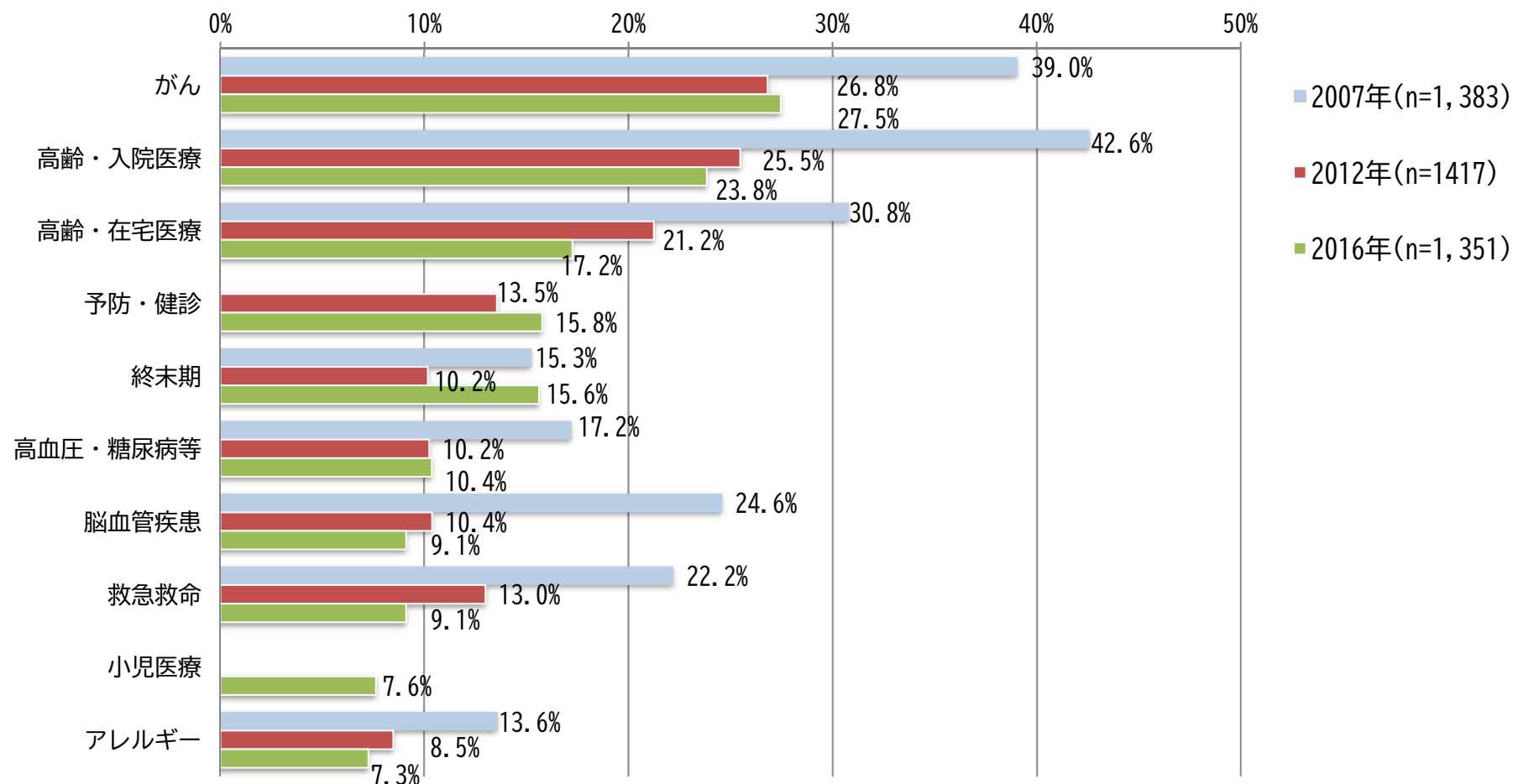
【参考資料】

前回（2016年）調査の結果概要

視点7 今後充実を希望する医療

！ポイント

・2012年調査と比べると、終末期医療への関心が5.4ポイント上がっている。



整理番号: 0000

調 査 票

インターネットで回答される方は、
整理番号を入力してください。

【基礎項目】

問1 あなたの年齢について、**あてはまるものを1つ**選び、番号に○をつけてください。

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 1. 18～29 歳 | 2. 30 歳代 | 3. 40 歳代 |
| 4. 50 歳代 | 5. 60～64 歳 | 6. 65～69 歳 |
| 7. 70～74 歳 | 8. 75～79 歳 | 9. 80 歳以上 |

問2 あなたの性別について、**あてはまるものを1つ**選び、番号に○をつけてください。

- | | | |
|-------|-------|----------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. 回答しない |
|-------|-------|----------|

問3 あなたがお住まいの区について、**あてはまるものを1つ**選び、番号に○をつけてください。

- | | | | | |
|-----------|---------|---------|--------|---------|
| 1. 青葉区 | 2. 旭区 | 3. 泉区 | 4. 磯子区 | 5. 神奈川区 |
| 6. 金沢区 | 7. 港南区 | 8. 港北区 | 9. 栄区 | 10. 瀬谷区 |
| 11. 都筑区 | 12. 鶴見区 | 13. 戸塚区 | 14. 中区 | 15. 西区 |
| 16. 保土ヶ谷区 | 17. 緑区 | 18. 南区 | (五十音順) | |

問4 あなたの職業等について、**あてはまるものを1つ**選び、番号に○をつけてください。

- | | | |
|----------|------------|--------------|
| 1. 自営業 | 2. 会社員・公務員 | 3. パート・アルバイト |
| 4. 主婦・主夫 | 5. 学生 | 6. 無職 |
| 7. その他 | | |

問5 あなたにお子さんはいますか。同居していないお子さんも含め全員について、**あてはまるものをすべて選び**、番号に○をつけてください。

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 1. 子どもはいない | 2. 0～2 歳 | 3. 3～5 歳 |
| 4. 6～11 歳 | 5. 12～14 歳 | 6. 15～17 歳 |
| 7. 18 歳以上 | | |

問6 あなたの家族形態は、次の中のどれにあたりますか。
同居している方のみを対象に、**あてはまるものを1つ**選び、番号に○をつけてください。

- | | | |
|-------------------|---------|---------------|
| 1. 一人暮らし | 2. 夫婦のみ | 3. 親と子 (2 世代) |
| 4. 祖父母と親と子 (3 世代) | 5. その他 | |

問 7-1 あなたは、現在、高血圧や糖尿病などの慢性的な病気の治療や薬の処方を受けるため、病院又は診療所（クリニック等）（ただし歯科診療所は除く）を定期的（概ね1か月に1回以上）に受診していますか。

最も日常的に受診しているものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 市内の病院を受診している
2. 市外の病院を受診している
3. 市内の診療所（クリニック等）を受診している
4. 市外の診療所（クリニック等）を受診している
5. 定期的には受診していない

～用語解説～

○ 診療所（クリニック等）

入院用のベッドを持たない又は 20 床未満のベッドを有し、主に日常の健康管理や比較的軽症の医療、必要時の専門医療機関への紹介等を行うための医療機関のこと

○ 病院

20 床以上の入院用のベッドを有し、主に入院治療や手術を行うための医療機関のこと

問 7-2 問 7-1 で「1. 市内の病院を受診している」「2. 市外の病院を受診している」「3. 市内の診療所（クリニック等）を受診している」「4. 市外の診療所（クリニック等）を受診している」に○をつけた方に伺います。

あなたの慢性的な病気について、**あてはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。**

1. がん
2. 心疾患（狭心症・心房細動・慢性心不全など）
3. 脳血管疾患
4. 高血圧
5. 糖尿病
6. 精神疾患
7. その他（具体的に)

問 8-1 あなたには、あなたの心身の状態をわかっていて、治療だけでなく日常の健康管理や相談ができる医師（かかりつけ医）がいますか。

あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. いる 【問 9 へ】
2. いない 【問 8-2 へ】

問 8-2 問 8-1 で「2. いない」に○をつけた方に伺います。

かかりつけ医がいない理由は何ですか。

あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 現在、健康だから
2. どのような医療機関・医師を選んでよいかわからないから
3. 近くに適当な医療機関・医師がいないから
4. その他（具体的に)

問 9

医療機関には、

- 軽いけがや風邪等の入院や手術を伴わない軽症に対応する医療機関（一次）
- 入院や手術を伴う重症に対応する医療機関（二次）
- 交通事故による多発外傷など生命の危機に係わる症状に対応する医療機関（三次）

とそれぞれ役割があり、役割に応じた医療機関を受診することが望ましいということを知っていますか。

あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 知っていて、どの医療機関が該当するかわかる
2. 知っているが、どの医療機関が該当するかはわからない
3. 聞いたことはある
4. 知らない

問 10 病院には、急性期病院、回復期リハビリテーション病院、療養を担う病院などがあり、それぞれの病院ごとに役割が違うことを知っていますか。

あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 知っていて、どの病院が該当するかわかる
2. 知っているが、どの病院が該当するかはわからない
3. 聞いたことはある
4. 知らない

～用語解説～

○ 急性期病院

けがや病気の発症直後や手術の前後など、患者の症状が不安定な状態の時期（急性期）の医療に対応する病院。

○ 回復期リハビリテーション病院

脳卒中や大腿骨骨折などにより急性期の治療を行った後に、日常的生活能力の向上による寝たきりの防止と在宅復帰を目的としたリハビリテーションを集中的に行う病院。

○ 療養を担う病院

急性期の治療などにより症状は安定しているものの、引き続き、医療的な対応が長期間必要な患者の入院に対応する病院。

【発熱（38度前後）やのどの痛みなどの比較的軽い症状のときの、あなたの行動や考え方についてお伺いします】

問 11 あなたは、発熱（38度前後）やのどの痛みなどで心身の具合が悪いとき、最初にどのような行動をとることが多いですか。

あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 診療所（クリニック等）を受診する
2. 病院を受診する
3. 市販薬を飲む
4. 家で安静にする・休息する
5. わからない

問 12 あなたは、発熱（38度前後）やのどの痛みなどで心身の具合が悪く、医療機関を受診したいとき、どのような方法・手段で探していますか。

とくにあてはまるものを2つ選び番号に○をつけてください。

1. 家族・友人・知人に聞く
2. 介護・看護関係者（ケアマネジャーや訪問看護師など）に聞く
3. 地域ケアプラザ（地域包括支援センター）で聞く
4. 電話相談窓口（横浜市救急相談センター（#7119）、横浜市医師会地域医療連携センターなど）で探す
5. 雑誌、専門情報誌、書籍で探す
6. 自治体で作成している広報誌（暮らしのガイドなど）で探す
7. 市役所・区役所などの自治体のウェブサイトを見る
8. インターネットで調べる
9. かかりつけ医を受診するので特に探さない
10. その他（具体的に)

問 13 あなたは、発熱（38度前後）やのどの痛みなどで心身の具合が悪く、受診する医療機関を選択するとき、診療科の他にどのような点を重視しますか。

とくにあてはまるものを2つ選び、番号に○をつけてください。

1. 自宅・職場等からの距離や交通の便の良さ
2. 診療日・診療時間など
3. 家族や知人など周囲の人からの評判の良さ、口コミ
4. 設備（医療機器など）の充実
5. 医療機関・医師の診療実績・専門分野
6. 医師の性別
7. 在宅対応（往診又は訪問診療）ができるか
8. 待ち時間の長さ
9. 病院等の相談室、医療専門職による相談の充実
10. かかりつけ医を受診する

【あなたやご家族が、大きな手術や長期の療養が必要な病気にかかったときの行動や考え方についてお伺いします】

問 14 あなたやご家族が大きな手術や入院治療などを受ける医療機関を選ぶために、どのようなことを知りたいと考えますか。

とくにあてはまるものを2つまでを選び、番号に○をつけてください。

1. 自宅・職場等からの距離や交通の便
2. 家族や知人など周囲の人からの評判
3. 医療機関の規模（病床数、医師や看護師などのスタッフ数など）
4. 医療機関の設備（医療機器など）
5. 医療機関・医師の治療実績（治ゆ率、手術件数など）
6. 医療機関の対応可能な疾患・治療法
（【例】がんなどの場合に放射線治療ができる医療機関、抗がん剤治療ができる医療機関など）
7. 標準的な治療費などの費用
8. 病室の広さや清潔さ、アメニティ
9. 病院等の相談機能、地域医療機関等との連携体制
10. 在宅医療を含む退院後のフォロー体制
11. その他（具体的に _____)
12. 知りたいことはない・わからない

問 15 問 14 で○をつけた情報について、あなたはどのような方法・手段で情報を集めますか。

とくにあてはまるものを2つまでを選び、番号に○をつけてください。

1. 家族・友人・知人に聞く
2. かかりつけ医・最初に受診した医療機関に聞く
3. 医療機関の相談窓口で聞く
4. 介護・看護関係者（ケアマネジャーや訪問看護師など）に聞く
5. 地域ケアプラザ（地域包括支援センター）で聞く
6. 区役所等の自治体の窓口で聞く
7. 雑誌、専門情報誌、書籍で調べる
8. インターネットで調べる
9. 医療機関の病気や治療に関する講演会等で話を聞く
10. 在宅医療連携拠点（在宅医療相談室）に聞く
11. その他（具体的に _____)
12. わからない

～用語解説～

○ **在宅医療連携拠点（在宅医療相談室）**

疾病を抱えても市民の方が住み慣れた家等で療養生活し、継続的な在宅医療・介護を受けられるよう、横浜市医師会と協働し、18区に整備しています。在宅医療に関するご相談をケアマネジャーや市民の方から受けたり、在宅医療を担う医師への支援を行っています。

問 16 あなたは、人生の最終段階において、どのような医療・ケアを望むか、これまでに考えたことがありますか。

あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. ある
2. ない

問 17 あなたは、人生の最終段階において、どのような医療・ケアを望むか、ご家族等や医療介護関係者と話し合ったことがありますか。

あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 詳しく話し合っている
2. 一応話し合っている
3. 話し合ったことはない

問 18 あなたは、人生の最終段階をどこで迎えたいと思いますか。

あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 自宅
2. 施設（特別養護老人ホーム等）
3. 病院
4. その他
5. 分からない、これまで考えたことがない

問 19 「人生会議」について、知っていますか。

あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. よく知っている
2. 聞いたことはあるがよく知らない
3. 知らない

～用語解説～

○「人生会議」

人生の最終段階の医療・ケアについて、本人が家族等や医療介護関係者と事前に繰り返し話し合うプロセス

問 20 あなたが余命 6 か月と診断された場合、自宅で療養するとしたら、在宅医療を希望しますか。

また、その実現は可能だと思いますか。

あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 希望するし、実現可能
2. 希望するが、実現は難しい
3. 希望しない
4. 現在、在宅医療を受けている
5. わからない

問 21 あなたが余命 6 か月と診断された場合、自宅で療養するとしたら、心配なことは何ですか。

とくにあてはまるものを2つまで選び、番号に○をつけてください。

1. 介護する家族の負担
2. 今後の生活や経済的負担
3. 介護してくれる人がいない
4. 療養できる部屋・環境の問題
5. 急変時の対応・看取り
6. 死後の手続きや財産処分
7. 在宅医療の内容
8. 在宅介護の内容
9. その他（具体的に
10. 心配はない
11. わからない

問 22 あなたが知りたい在宅医療の情報について、どのような方法・手段で情報を集めますか。

とくにあてはまるものを2つまで選び、番号に○をつけてください。

1. インターネットやSNSで調べる
2. 書籍・雑誌で調べる
3. 家族・友人・知人に聞く
4. かかりつけ医・主治医に聞く
5. 医療機関の相談窓口で聞く
6. 区役所等の自治体の相談窓口で聞く
7. 在宅医療連携拠点（在宅医療相談室）に聞く
8. 地域ケアプラザ（地域包括支援センター）で聞く
9. その他（具体的に
10. わからない

問 23 あなたは、ご自分の病気や治療について知り、受ける医療をご自身で
選択・決定するためには、何が必要と考えますか。

とくにあてはまるものを2つまで選び、番号に○をつけてください。

1. 主治医による病状や治療方針の十分な説明
2. 病院等の相談室、医療専門職による相談の充実
3. セカンドオピニオンを受けられる環境整備
4. 医療に関する書籍や情報を集めた場所の提供
(図書館や病院の医療情報コーナーなど)
5. 患者会・セルフヘルプグループの活動の情報の提供
6. 医療に関する市民向けの講演会やイベント等の情報の提供
7. 「人生会議」に関するきっかけや情報の提供
8. その他(具体的に)
9. わからない

～用語解説～

○ セカンドオピニオン

治療や手術について、主治医以外の他の医療機関の医師の意見を求めること

○ 患者会・セルフヘルプグループ

特定の病気の患者や家族が集まって、情報交換などの活動をしている団体のこと

【急病時の対応についてお伺いします】

問 24 急な病気やけがで、今すぐに受診が必要か、救急車を呼ぶべきかどうか
迷ったとき、どのような方法で情報を得たいと考えますか。

あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 電話で相談したい
2. 1と同じ情報を得られるのであれば、インターネットで調べたい

問 25 急な病気やけがで、今すぐに診療可能な医療機関を探したいとき、どの
ような方法で探したいと考えますか。

あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 電話で聞きたい
2. 1と同じ情報を得られるのであれば、インターネットで調べたい

【がん対策についてお伺いします】

問 26 あなたは、がんと診断されたら、がんの治療法や病院に関する情報について、どこから入手しようと思いますか。

あてはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

1. がん相談支援センター（がん診療連携拠点病院の相談窓口）で聞く
2. 1以外の医療機関の相談窓口で聞く
3. 区役所等の自治体の窓口で聞く
4. 図書館で調べる
5. 新聞・雑誌・書籍で調べる（4以外の方法で）
6. テレビを見る、ラジオを聞く
7. 国立がん研究センターのウェブサイト「がん情報サービス」を見る
8. 市役所・区役所などの自治体のウェブサイトや広報誌を見る
9. 家族・友人・知人に聞く
10. インターネットで調べる
11. その他（具体的に)

～用語解説～

○がん相談支援センター

がん相談支援センターとはがんの専門的な医療を提供する医療機関として国や神奈川県が一定の基準により指定する「都道府県がん診療連携拠点病院」、「地域がん診療連携拠点病院」、「神奈川県がん診療連携指定病院」に設置されています。その病院にかかっていない人も相談をすることができます。

問 27-1 あなたやあなたの身近な方ががんにかかった場合、仕事や家事などの日常生活とがんの治療の両立はできると思いますか。

あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 両立できる
2. 条件を整えば両立できる 【問27-2へ】
3. 両立できない
4. 治療に専念したいので、両立したいと思わない
5. その他（具体的に)

問 27-2 問 27-1 で「2. 条件を整えば両立できる」に○をつけた方に伺います。それはどのような条件ですか。

あてはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

1. 症状や体力的な問題
2. 意欲など精神的な問題
3. 職場の理解、制度
4. 家族の理解、協力
5. 治療の方法やスケジュール
6. その他（具体的に)

問 28 あなたやあなたの身近な方が、がんの痛みがある場合に治療を受ける場所として希望する場所はどこですか。

あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 自宅（在宅医療）
2. 介護施設（特別養護老人ホームなど）
3. かかりつけの診療所
4. 一般的な病院
5. がんの専門的な医療を提供する病院
6. 緩和ケア病棟がある病院
7. その他（具体的に)

～用語解説～

○緩和ケア病棟とは

緩和ケア病棟では、がんを治すことを目標にした治療（手術、薬物療法、放射線治療など）ではなく、がんの進行などに伴う体の痛みや心のつらさに対する専門的な治療を提供します。

【食中毒や感染症の予防についてお伺いします】

問 29 食中毒や感染症を予防するためには、次のような対策が有効です。

日常的に取っている対策であてはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

1. 肉やハンバーグは中心までよく焼いて食べる
2. 焼肉やバーベキューでは、肉を焼く tong と、焼きあがった肉をお皿にとる tong を分ける
3. 野菜はよく洗って食べる
4. 生ものを切った後の包丁とまな板は消毒している
5. 調理の前や食事の前には石けんで手をよく洗う
6. トイレに行った後は石けんで手をよく洗う
7. あてはまることはない

問 30 感染症の名前について、**知っているものをすべて**選び、番号に○をつけてください。

1. インフルエンザ
2. 感染性胃腸炎（ノロウイルスやロタウイルスなど）
3. 腸管出血性大腸菌感染症（O157など）
4. デング熱
5. 麻しん（はしか）
6. 結核
7. ヒト免疫不全ウイルス（HIV）感染症（エイズなど）

【こころの病気についてお伺いします】

問 31 寝つきが悪い、途中で目が覚めてしまう、食欲がわからない、ちょっとしたことでイライラしたり気分が落ち込む、不安や緊張を強く感じる、とりとめもない考えが次々と浮かんできて考えがまとまらない、などこころの不調を感じた時に、まずどのように行動することが多いですか。

あてはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

1. 専門医（精神科、神経科、心療内科の医師）を受診する
2. かかりつけ医（内科などの身近な病院や診療所の医師）を受診する
3. 薬局等で販売している市販薬を服用する
4. 家族または友人、知人に相談する
5. 家族の介護・ケアを行っている人など、身近にいる介護や福祉の関係者（ケアマネージャー、相談支援専門員など）に相談する
6. 最寄りの区役所（福祉保健センターなど）に相談する
7. こころの電話相談（こころの健康相談センター）に相談する
8. 横浜市総合保健医療センターに相談する
9. 横浜市精神障害者家族連合会に相談する
10. 趣味・ストレス解消になる活動をする（運動・入浴・レジャーなど）
11. その他
12. 特にない・わからない

問 32 あなたやご家族等が、うつ病、統合失調症、依存症等の精神疾患かもしれないと指摘されたときに、どのような情報が欲しいですか。

とくにあてはまるものを2つ選び、番号に○をつけてください。

1. 医療機関・医師の診療実績・治療実績に関すること
2. 医療機関・医師の対応できる疾患・専門分野に関すること
3. （一般的な）病気・病状に関すること
4. （一般的な）病気の治療内容、通院・入院期間に関すること
5. 医療制度や医療提供体制に関すること
6. 医療費助成に関すること（自立支援医療等）
7. 退院後の治療や地域での治療継続に関すること
8. 病院等の相談機能、地域医療機関等との連携体制に関すること
9. 訪問診療・往診、訪問看護の提供に関すること
10. 急に精神症状が悪くなった時の相談先に関すること
11. 就学や就労に関すること
12. 周囲からの偏見や理解について悩んだ時の相談先に関すること
13. その他
14. 特にない・わからない

【歯と歯科診療についてお伺いします】

問 33-1 あなたは、歯や口の状態について何か気になるところがありますか。
あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|--------|------------|
| 1. はい | 【問 33-2 へ】 |
| 2. いいえ | 【問 34-1 へ】 |

問 33-2 問 33-1 で「1. はい」に○をつけた方に伺います。
それはどのような症状ですか。

あてはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

- | |
|------------------------|
| 1. 歯が痛んだりしみたりする |
| 2. 歯ぐきが腫れたり出血する |
| 3. 歯がぐらぐらする |
| 4. 硬いものがかみにくい |
| 5. 食べ物が歯と歯の間にはさまる |
| 6. かむ・味わう・飲み込む事に不自由がある |
| 7. 口臭が気になる |
| 8. 入れ歯が合わない |
| 9. その他（具体的に) |

問 34-1 あなたは、歯や口の健康管理や相談ができるかかりつけの歯科医院（診療所）を決めていますか。

あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- | | | | |
|-------|------------|--------|------------|
| 1. はい | 【問 34-2 へ】 | 2. いいえ | 【問 34-3 へ】 |
|-------|------------|--------|------------|

問 34-2 問 34-1 で「1. はい」に○をつけた方に伺います。

あなたのかかりつけ歯科医院は次のどれですか。

あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- | |
|----------------------|
| 1. 自宅から近い身近な地域の歯科診療所 |
| 2. 職場等から近い歯科診療所 |
| 3. 家族が受診している歯科診療所 |
| 4. その他（具体的に) |

問 34-2 を回答の方は【問 35】へお進みください。

問 34-3 問 34-1 で「2. いいえ」に○をつけた方に伺います。

かかりつけ歯科医院がない理由は何ですか。

あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 現在、健康でかかりつけ歯科医を持つ必要がないから
2. 近くに適切な歯科医療機関・歯科医師がないから
3. かかりつけ歯科医は必要と思うが、どのような歯科医療機関・
歯科医師を選んでよいかわからないから
4. 理由は特にない・わからない
5. その他（具体的に)

問 35-1 あなたは、この1年間に歯科医院（診療所）や病院の歯科を受診した
ことがありますか。

あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 受診した 【問 35-2 へ】
2. 受診中 【問 35-2 へ】
3. 受診していない 【問 36 へ】

問 35-2 問 35-1 で「1. 受診した」、「2. 受診中」に○をつけた方に伺い
ます。受診した内容は何ですか。

あてはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

1. 定期健診・歯みがき指導等
2. むし歯の治療（詰め物、冠をかぶせる等）
3. 歯周疾患（歯肉炎、歯槽膿漏等）の治療
4. 抜けた歯の治療（入れ歯、ブリッジの作成・修理）
5. 歯ならびやかみあわせの治療
6. 歯科訪問診療
7. 食べ物を嚙んで、飲み込む訓練
8. 事故などによる損傷の治療
9. 歯のホワイトニング
10. その他（具体的に)

【薬と薬局についてお伺いします】

問 36 あなたは、「後発医薬品（ジェネリック医薬品）」を積極的に選びますか。
あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 積極的に選ぶ
2. 選びたくない
3. こだわらない
4. 知らない・聞いたことがない
5. その他

問 37-1 あなたは、かかりつけ薬局を決めておくすり手帳を活用していますか。
あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 薬局を決めていて、手帳を活用している 【問 38 〜】
2. 薬局を決めていて、手帳は活用していない 【問 38 〜】
3. 薬局を決めていて、手帳は知らない 【問 38 〜】
4. 薬局を決めていないが、手帳を活用している 【問 37-2 〜】
5. 薬局を決めておらず、手帳を活用していない 【問 37-2 〜】
6. 薬局を決めておらず、手帳は知らない 【問 37-2 〜】

問 37-2 問 37-1 で「4. 薬局を決めていないが〜」「5. 薬局を決めておらず、〜」「6. 薬局を決めておらず、〜」に○をつけた方に伺います。

かかりつけ薬局を決めていない理由は何ですか。

あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 現在、健康でかかりつけ薬局を持つ必要がないから
2. かかった病院や診療所の近くの薬局に行った方が便利だから
3. 営業時間など、その時の都合にあった薬局へ行くから
4. 理由は特にない
5. その他（具体的に _____)

【医療に関する情報と医療への満足度についてお伺いします】

問 38 あなたが現在、医療について知りたい情報は何か。
あてはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

1. 医療機関の基本的情報に関する事（所在地・診療科・診療時間等）
2. 医療機関・医師の診療実績・治療実績に関する事
3. 医療機関・医師の対応できる疾患・専門分野に関する事
4. 医療機関の病室の広さや清潔さ、アメニティに関する事
5. 病気・病状に関する事
6. 病気の治療内容・入院（通院）期間
7. 病気の治療にかかる標準的な費用
8. 医療制度や医療提供体制
9. 医療費助成に関する事（高額療養費制度等）
10. 高度先進医療に関する事
11. 病院等の相談機能、地域医療機関等との連携体制に関する事
12. 退院後の治療や在宅医療に関する事
13. 訪問診療・往診の提供に関する事
14. 歯科医師による訪問歯科診療に関する事
15. 薬剤師による訪問服薬指導に関する事
16. その他（具体的に)
17. 特になし・わからない

問 39 問 38 で○をつけた情報について、あなたはどのような方法・手段で情報を集めますか。

あてはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

1. 雑誌、専門情報誌、書籍で調べる
2. 自治体が作成している広報誌（暮らしのガイドなど）を見る
3. 市役所・区役所などのウェブサイトを見る
4. 医師会などの医療関係団体のウェブサイトを見る、電話等で聞く
5. インターネットで調べる
6. SNS (Twitter, Instagram, LINE, Youtube) で調べる
7. 講演会などで医師から話を聞く
8. かかりつけ医・主治医から聞く
9. 医療機関の相談窓口に行く
10. 地域の薬局などで薬剤師から聞く
11. 介護・看護関係者（ケアマネジャーや訪問看護師など）に行く
12. 区役所等の自治体の窓口等で聞く
13. 地域ケアプラザ（地域包括支援センター）に行く
14. 家族・友人・知人に聞く
15. 在宅医療連携拠点（在宅医療相談室）に行く
16. その他（具体的に)

問 40 横浜市の医療に満足していますか。

次のそれぞれの項目ごとに、あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

※ご自身が直接かかったことのない場合でも、身近な方がかかったなど関わりがある場合は、その状況を踏まえてお答えください。

	1 満足	2 やや満足	3 やや不満	4 不満	5 わからない
【記入例】 ○○○について	1	2	3	4	5
1. がんの診療について	1	2	3	4	5
2. 脳血管疾患（脳卒中）の診療について	1	2	3	4	5
3. 心臓疾患の診療について	1	2	3	4	5
4. 糖尿病の診療について	1	2	3	4	5
5. 精神科医療について	1	2	3	4	5
6. リハビリテーション医療について	1	2	3	4	5
7. 重い病気・難病などの診療について	1	2	3	4	5
8. 歯科医療について	1	2	3	4	5
9. 薬局について	1	2	3	4	5
10. 休日や夜間の医療について	1	2	3	4	5
11. 救急医療について	1	2	3	4	5
12. 災害時医療について	1	2	3	4	5
13. 産科・周産期医療について	1	2	3	4	5
14. 小児医療について	1	2	3	4	5
15. 在宅医療について	1	2	3	4	5
16. 人生の最終段階における医療について	1	2	3	4	5
17. 病院等の相談室・地域連携について	1	2	3	4	5
18. あなたが受診した医療機関で受けた診療について	1	2	3	4	5
19. 横浜の医療について（総合的に）	1	2	3	4	5

よこはま保健医療プラン策定検討部会設置要綱

制 定 平成 24 年 5 月 1 日
最近改正 平成 28 年 8 月 15 日

（趣旨）

第 1 条 この要綱は、保健医療分野を中心とした施策を総合的に体系づけた中期的な指針となる「よこはま保健医療プラン」の策定にあたり、専門の事項を協議するため、横浜市保健医療協議会運営要綱第 7 条第 1 項に基づく部会として、よこはま保健医療プラン策定検討部会（以下「部会」という。）を置き、部会の運営その他必要な事項について定めるものとする。

（内容）

第 2 条 部会は、次の事項について協議を行うものとする。

- (1) 「よこはま保健医療プラン」の策定
- (2) その他必要な事項

（構成）

第 3 条 部会は、横浜市保健医療協議会（以下「協議会」という。）の委員、臨時委員及び関係団体の代表等のうちから、協議会会長が指名する者をもって組織する。

（部会長）

第 4 条 部会は、部会長を 1 人置き、協議会会長が指名する。

（会議）

第 5 条 部会の会議は、協議会会長の指示に応じ部会長が招集する。

（会議の公開）

第 6 条 横浜市の保有する情報の公開に関する条例（平成 12 年 2 月横浜市条例第 1 号）第 31 条の規定により、部会の会議については、一般に公開するものとする。ただし、委員の承諾があれば、会議の一部又は全部を非公開とすることができる。非公開とする場合は、傍聴人を会場から退去させるものとする。

（意見の聴取等）

第 7 条 部会長は、会議の運営上必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、その意見又は説明を聴くほか、資料の提出その他必要な協力を求めることができる。

（解散）

第 8 条 部会は、「よこはま保健医療プラン」の策定終了をもって、解散するものとする。

（庶務）

第 9 条 部会の庶務は、医療局医療政策部医療政策課において処理する。

（委任）

第 10 条 この要綱に定めるもののほか、部会の運営に関し必要な事項は、部会長が部会の会議に諮って定める。

附 則

(施行期日)

この要綱は、平成 24 年 5 月 1 日から施行する。

附 則

(施行期日)

この要綱は、平成 28 年 8 月 15 日から施行する。

よこはま保健医療プラン策定検討部会 委員名簿（令和4～5年度）

（五十音順、敬称略）

	氏名	所属団体・現職等
委員	イクタ ジュンヤ 生田 純也	横浜市社会福祉協議会 高齢福祉部会 地域ケアプラザ分科会 会長
委員	イシカワ ベンジャミン 石川 ベンジャミン	国際医療福祉大学 教授
委員	ウシマル ナガコ 牛丸 良子	神奈川県看護協会 横浜北支部理事
委員	カワムラ トモコ 河村 朋子	横浜在宅看護協議会 会長
委員	クボタ ミツアキ 久保田 充明	横浜市薬剤師会 副会長
委員	コマツ ヒロカズ 小松 弘一	横浜市立市民病院 院長
委員	テラウチ ヤスオ 寺内 康夫	横浜市立大学 学術院医学群長兼医学部長
委員	ニノミヤ タケシ 二宮 威重	横浜市歯科医師会 常任理事
委員	ヒシモト アキトヨ 菱本 明豊	横浜市立大学 医学部精神医学教室 主任教授
委員	ヒラモト マコト 平元 周	横浜市病院協会 副会長
部会長	フシミ キョウヘイ 伏見 清秀	東京医科歯科大学 医学部 教授
委員	マツウラ マサヨシ 松浦 正義	横浜市民生委員児童委員協議会 理事
委員	ミスミ タカヒコ 三角 隆彦	済生会横浜市東部病院 院長
委員	ヨシムラ ユキヒロ 吉村 幸浩	横浜市立市民病院 感染症内科長
委員	ワタナベ トヨヒコ 渡辺 豊彦	横浜市医師会 副会長